

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 1 週(1 月 2 日～ 1 月 8 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(平成 28 年 12 月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 5.54 | (4.00) | ↗ | ↑ | ↗ | ↘ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.41 | (6.09) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | 流行性耳下腺炎 | 1.09 | (1.03) | ↘ | ↓ | → | ↓ |
| 4 | RS ウイルス感染症 | 0.82 | (1.15) | ↘ | ↘ | ↓ | ↑↑ |
| 5 | A群溶連菌咽頭炎 | 0.65 | (1.09) | ↓ | ↓ | ↓ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

第 1 週もお休みの医療機関が多く、患者報告数は前週よりも少ないですが、インフルエンザは増加しています。20 歳以上の成人の報告が約半数を占めており、なかでも 60 歳以上が 10%を超えているのは、例年より多い状況です。65 歳以上の高齢者、各種の基礎疾患を有する方々は重症化しやすいため、特に注意が必要です。近府県でもインフルエンザは増加しており、今後の流行状況には注意が必要です。

昨年から引き続き、流行性耳下腺炎(おたふく風邪)及びマイコプラズマ肺炎は、例年より多い状況が続いています。

マスク・手洗い・咳エチケットを心がけて、感染予防対策を励行してください。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 28 年 12 月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | 他 | 臨床診断名 |
|-----------------|----|----|----|---|-------------------------------|
| インフルエンザ AH3 | 4 | 3 | | | インフルエンザ(7) |
| インフルエンザ AH1pdm | 1 | | 2 | | インフルエンザ(3) |
| エコー 25 型 | 1 | 1 | 1 | | 感染性胃腸炎(3) |
| 3 型 | 1 | 1 | | | RS ウイルス感染症(1)、喘息性気管支炎(1)* |
| 6 型 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| アデノ 2 型 | | 1 | | | 喘息性気管支炎(1)* |
| ノロ GII | 3 | 24 | | | 感染性胃腸炎(27) |
| コクサッキー A 群 16 型 | 1 | | | | 手足口病(1) |
| ライノ A | | 1 | | | 脳炎・脳症(1)** |
| C | 2 | 1 | | | 手足口病(1)、ヘルパンギーナ(1)、脳炎・脳症(1)** |
| ムンプス G 型 | | | 1 | | 無菌性髄膜炎(1) |
| ヒトメタニューモ | | 1 | | | 気管支炎(1) |
| パレコ 3 型 | | 1 | | | 発疹症(1) |
| バラインフルエンザ 2 型 | | 1 | | | 気管支肺炎(1) |

*、**重複感染

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 2 週(1 月 9 日～ 1 月 15 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令です!

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 28 年 12 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 12.43 | (5.54) | ↑↑ | ↑↑ | ↑ | ↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.09 | (2.41) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | 流行性耳下腺炎 | 1.09 | (1.09) | ↘ | → | ↓ | ↑ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.06 | (0.65) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 5 | RS ウイルス感染症 | 0.76 | (0.82) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザが急増しています。定点当たり報告数が前週から倍増し、注意報開始基準値「10」を超えたので、インフルエンザの注意報が発令となりました。今後、更に急増して本格的に流行するとみられます。マスク・手洗い等の感染予防(かからないように)、咳エチケットによる感染拡大防止(うつさないように)を心がけてください。特に、小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫が低下している方では肺炎を伴う等、重症化することがあります。小児や高齢者がいる家庭や職場などに、持ち込まないようにする事が重要です。適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるなども感染予防には重要です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

正月休みで、直近 1 週間の状況です。インフルエンザが徐々に増えていきます。小学校高学年から成人が中心で、迅速では A 型です。感染性胃腸炎はほとんど無くなりました。幼児から小学生で流行性耳下腺炎が流行しています。咳や鼻汁がひどいかぜが成人で多くみられます。マイコプラズマではないようです。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

寒波の到来と共にインフルエンザが一気に増加してきた。家族一斉の例もあった。昨年一例 B 型があったが他はすべて A 型。元気そうな例でも陽性の事もあった。重症経過例はない。流行性耳下腺炎が続いて流行中。感染性胃腸炎も減少傾向の様であるが持続。ロタ陽性例はなかった。咳嗽の例もありマイコプラズマの学童もあった。他に A 群溶連菌感染症、アデノ、伝染性紅斑があった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

感染性胃腸炎の流行は落ち着いてきた。RS ウイルス感染の流行は続いている。3 学期が始まって A 型インフルエンザが増加、B 型も少数みられる。溶連菌感染も依然多い。ムンプスは減少。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 3 週(1 月 16 日～ 1 月 22 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令中です!

今週の概要

- ・「風しんゼロ」プロジェクトを進めましょう

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 21.22 | (12.43) | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.03 | (3.09) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.53 | (1.06) | → | → | → | ↗ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 1.32 | (0.76) | → | → | ↗ | ↓ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 1.15 | (1.09) | → | → | ↓ | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザが急増しています。全ての年齢から報告がありますが、先週と比べると 15 歳未満の患者が著しいです。咳エチケット、外出後の手洗いの感染予防対策を心がけてください。学校保健安全法では、インフルエンザは、「発症した後(発熱の翌日を 1 日目として)5 日を経過し、かつ、解熱した後 2 日(幼児は 3 日)を経過するまで」は、出席停止期間とされています。抗ウイルス薬により、すぐに軽快しても感染力は残っており、この時期に外出すると感染を広げることになります。

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)は、昨年引き続き流行が続いています。不可逆性(聴力が回復しない)難聴が、約 1,000 人に 1 人程度であるとされます。感染していない時期に、ワクチン接種をお勧めします。

2 月 4 日は「風しんの日」 2 月は「風しんゼロ」月間

—「風しんゼロプロジェクト」— を進めましょう

1. 風しんにご注意! わが国では風しん流行のリスクはいまだに消えていません!
2. 妊娠 20 週頃まで(主に妊娠初期)に風疹ウイルスに感染すると胎児が先天性風しん症候群になるおそれが生じます。(※ 1)
3. 30~50 代の男性は、風しんに対する免疫のない方が多く、風しん流行の要因となっています。
4. 海外流行地への渡航は風疹ウイルスに感染するリスクを上げます。渡航の際は万全の風しん予防対策、また帰国後は風しん発症リスクに対する適切な対応策をとってください。(※ 2) (「風しんゼロプロジェクト」は日本産婦人科医学会が実施されています。)

(※ 1) 先天性風しん症候群: 妊娠 20 週頃まで(主に妊娠初期)に妊婦が風疹ウイルスに感染すると、難聴、心疾患、白内障などの障害を持った赤ちゃんが生まれるおそれがあり、その後、発育の遅れがみられることがあります。(詳しくはかかりつけの医師とよく相談されることをお勧めします。)

(※ 2) アジア、東欧、アフリカ等の風しんが流行している地域へ渡航の際はぜひ風しんワクチン(通常、MR ワクチン【MR=麻疹風疹】)を接種してからお出かけください。

・海外で風疹ウイルスに感染し、帰国後発症する”輸入例”から流行が拡がる事例が多くあります。

・海外の流行疾患の情報は、[厚生労働省検疫所 FORTH](#) ホームページをご覧ください。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 4 週(1 月 23 日～ 1 月 29 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令です!

インフルエンザの定点当たり報告数が警報基準値「30」を越えました。感染拡大の防止のために①手洗いの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

今週の概要

- ・小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 33.00 | (21.22) | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.18 | (3.03) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.21 | (1.53) | → | ↗ | → | ↘ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 0.79 | (1.32) | ↓ | ↓ | → | ↓ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.68 | (1.15) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

インフルエンザが警報開始基準値を超えました。奈良市、中和(西)(旧葛城)、吉野保健所管内からの報告が特に増加しています。近府県では、三重県、大阪府、兵庫県、京都府も警報レベルに達しています。6~14 歳の年齢層からの報告が非常に多く、小学校や中学校で流行を拡大させています。インフルエンザは、A 型インフルエンザの流行が終息に向かう頃から B 型インフルエンザが流行し始める傾向です。一度感染していても、同シーズン中に型違いで再び感染することもあります。手洗い、うがい、咳エチケットを行い、予防対策に努めましょう。

❖小児科外来情報❖

北部地区(矢追医院)

インフルエンザが大流行の様相です。ほぼ A 型が迅速検査で検出されています。10 歳以降成人がほとんどで、幼児はまだこれからのようです。症状は例年通りで、咳と突然の高熱から始まっている方が多いですが、昨日熱があったが、今日は無いが心配とのことで検査をすると陽性の方も今シーズンは目立ちます。

感染性胃腸炎はほとんどありません。流行性耳下腺炎の流行が昨年から続いています。保育園児で手足口病が流行しています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが一気に増加。乳幼児にも拡大。比較的軽症経過の例もあり 37 度程度の場合や、嘔吐から始まる胃腸炎と思われる様な症状の場合や筋肉痛や関節痛などの全身症状がない事も多く、1 歳以下の乳幼児でも元気な場合もあった。今週はすべて A 型であるが、8 才児で昨年 11 月にインフルエンザ A 型罹患例で、1 月に再度インフルエンザ A に罹患の例があった。ウイルス分離未提出で AH1pdm09 が不明。感染性胃腸炎は減少。今冬冬陽性例はない。流行性耳下腺炎も減少。アデノ陽性例が散発。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザ大流行中。ほとんど A 型であるが、一部 B 陽性児もいる。小学校で学級・学年閉鎖校が多数でている。全般に抗インフルエンザ薬剤が有効であるが、病初期のいれん発作例も多く、重症化例もいる。

感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ムンプスの流行も続いている

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 5 週(1 月 30 日～ 2 月 5 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 1 月)
- 平成 29 年 1 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 35.43 | (33.00) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.24 | (3.18) | → | → | → | → |
| 3 | 流行性耳下腺炎 | 1.41 | (0.68) | ↗ | ↑ | ↗ | ↓ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.29 | (1.21) | → | ↗ | → | ↑ |
| 5 | RSウイルス感染症 | 1.00 | (0.79) | → | ↘ | ↗ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中 インフルエンザの報告は、今週も増加しています。小学生以上の年齢で流行を拡大させていますが、年齢の小さい子どもにも流行が広がっています。また、県内で今シーズン初めての B 型インフルエンザを検出しました。B 型は軽症で済むこともあるとされており、医療機関への受診が遅れてしまうことがあります。体調の異変を感じたときには早めの受診を心がけてください。予防法のひとつである手洗いは、石けんを用いた二度洗いが効果的です。人は免疫力が弱っていると、感染症に感染しやすく、感染したときに症状が重くなるおそれがあります。十分な睡眠とバランスのとれた食事を心がけ、免疫力を高めるようにしましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 1 月) ◆

* ウイルス分離同日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|------------------|----|----|----|-----|----------------------|
| インフルエンザ AH1pdm09 | | 1 | | | インフルエンザ(1) |
| インフルエンザ AH3 | 8 | 5 | 1 | | インフルエンザ(13)、上気道炎(1) |
| RS | | 3 | | | 喘息性気管支炎(2)、急性上気道炎(1) |
| コクサッキーA 2 | | 1 | | | 上気道炎(1) |
| コクサッキーA 6 | 1 | | | | 発疹症(1) |
| コクサッキーA 9 | 1 | | | | 特発性血小板減少性紫斑病(1) |
| エコー 11 | | 1 | | | 気管支炎(1) |
| エコー 3 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| エコー 9 | 1 | 1 | | | 発疹性疾患(1)、感染性胃腸炎(1) |
| ライノ A | 1 | 1 | | | 不明熱(1)、上気道炎(1) |
| ライノ B | 1 | 1 | | | 手足口病(1)、無菌性髄膜炎(1) |
| アデノ 1 | 1 | | | | 感染性胃腸炎(1) |
| アデノ 2 | 2 | | | | 感染性胃腸炎(2) |
| ノロ GII | | 4 | | | 感染性胃腸炎(4) |

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 6 週(2 月 6 日～ 2 月 12 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

今週の概要

- 小児科外来情報
- 保健研究センターだより 2 月 今シーズンのノロウイルス検出状況

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 23.26 | (35.43) | → | → | → | → |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.97 | (3.24) | → | → | → | ↑ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.94 | (1.29) | ↑ | ↗ | ↑ | ↓ |
| 4 | 流行性耳下腺炎 | 0.65 | (1.41) | ↘ | ↘ | ↘ | ↓ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.50 | (0.59) | ↗ | ↑ | ↗ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中 インフルエンザの報告数は先週より減少しましたが、定点当たり報告数が終息基準値の「10」を下回るまで、警報発令状態は続きます。近県でも減少傾向ですが、まだ流行は続くことが予想されますので、手洗いの励行、咳エチケットを心がけましょう。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)は、増減を繰り返しています。感染経路は、ウイルスの付着した手で口や鼻に触れてしまい感染する接触感染、患者のくしゃみなどに含まれるウイルスを吸い込み感染する飛沫感染です。タオルや食器の共有はしないように注意してください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医療)

インフルエンザの流行は、先々週を頂点に減少してきました。小学校高学年から成人に多く、小学校低学年と園児はまだこれからかもしれません。A 型が大部分です。予防接種の有無による比率は 1:2 で例年と同様で、接種による効果は不明です。

感染性胃腸炎は 10 歳以上の方に少し見られる程度です。

流行性耳下腺炎が保育園児で流行が続いています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは減少傾向。雪情報の厳寒にも増加はない様子。今冬は軽症傾向であった。

感染性胃腸炎は減少傾向であるが流行持続。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ流行中。大部分が A 型。早期には抗インフルエンザ薬を投与しても高熱遷延例あり。インフルエンザ単独、細菌感染合併による肺炎など様々な場合がみられた。

一時おさまっていたノロウイルス胃腸炎が増加している。いずれも軽症～中等症で経過している。



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 7 週 (2 月 13 日 ~ 2 月 19 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

インフルエンザは、定点当たり報告数が警報終息基準値「10」を下回るまでは警報発令が続きます。
 感染拡大の防止のために①手洗いの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

今週の概要 お知らせ 3月1日(水)から3月7日(火)子ども予防接種週間です

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 17.83 | (23.26) | ↓ | ↓ | ↓ | → |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.91 | (2.97) | → | → | → | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.53 | (1.94) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 0.82 | (0.47) | → | ↓ | → | ↑ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.71 | (0.65) | ↓ | → | ↓ | ↓ |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中

インフルエンザは徐々に減少していますが、定点当たり報告数が10を下回るまで警報は継続します。保健研究センターのこれまでの検査では、A香港型(AH3)が特に多く、次にAH1pdm09、B型(ビクトリア系統)が検出されています。なお、AH1pdm09株の薬剤耐性マーカー(H275Y)の検出はなく、いずれも感受性株(抗インフルエンザ薬が効果を示す株)でした。

A群溶連菌咽頭炎が、中和保健所西部地域で多くなっています。A群溶血性レンサ球菌は、上気道炎や化膿性皮膚感染症など色々な臨床症状を引き起こす小児に多い疾患ですが、食中毒として感染が拡がることもあります。予防としては、患者との濃厚接触を避けることが最も重要で、うがい、手洗いなどの一般的な予防法の励行も大切です。

3月1日(水)~3月7日(火)は
子ども予防接種週間

4月からの入園・入学に備えて、
 必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう

県内協力医療機関 日本医師会《 <http://dl.med.or.jp/dl-med/vaccine/list/v28list29.pdf> 》

- ・接種できるワクチンの種類は各医療機関にお尋ねください。
- ・期間内でも夜間、土日曜日、休診日等で予防接種を実施していない日時もあります。
- ・接種希望者は必ず各医療機関にお問い合わせのうえ、予約してください。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 8 週 (2 月 20 日 ~ 2 月 26 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ警報発令中です!

インフルエンザは、定点当たり報告数が警報終息基準値「10」を下回るまでは警報発令が続きます。
 感染拡大の防止のために①手洗いの励行、②咳エチケット(マスク)を心がけてください。

今週の概要 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 10.89 | (17.83) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.00 | (2.91) | → | → | → | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.38 | (2.53) | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 4 | 流行性耳下腺炎 | 0.68 | (0.71) | ↓ | ↓ | → | ↓ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.50 | (0.35) | → | ↑ | → | ↑↑ |

発生状況: 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザ警報発令中

インフルエンザの報告数は減少していますが、まだ高いレベルです。

引き続き、手洗いの励行・咳エチケットを心がけ、感染予防に努めましょう。
 A群溶連菌咽頭炎は、中和保健所西部で増加し、警報レベルを超えています。また、咽頭結膜熱の報告も増加しています。感染を予防するには、患者との濃厚接触を避けること、うがい・手洗いを励行すること、タオルなどの共用を避けることが大切です。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医院)

インフルエンザの流行は週毎に縮小しています。3月初旬には流行は消滅すると思われます。今シーズンはほとんどA型でB型は数パーセントまでです。ワクチン接種の有無では、例年通り1:2で予防接種による感染予防の効果はみられない。救いは予防接種をしていると感染した場合に症状が軽減されること位と毎年思っています。その他では、溶連菌咽頭炎と流行性耳下腺炎の流行が続いている。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

インフルエンザはかなり減少した。今はすべてA型。年少児も軽症。
 感染性胃腸炎が持続。ノロほどの嘔気なく軽症。ロタ陽性はなかった。
 年長児でマイコプラズマ様の例が散発。
 他の感染症は少なかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行は続くも、減少傾向がみられはじめた。溶連菌感染症は多い。水痘、ムンプス、伝染性紅斑も少数発生あり。
 ノロウイルス様の胃腸炎が再度増加している。全体として軽症で経過している。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 9 週(2 月 27 日～ 3 月 5 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 2 月)
- 平成 29 年 2 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 7.04 | (10.89) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.94 | (2.38) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 3 | 感染性胃腸炎 | 2.74 | (3.00) | → | → | → | ↓ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 0.85 | (0.47) | ↗ | ↗ | → | ↓ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.76 | (0.68) | → | → | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの報告は、先週に引き続き減少し、定点当たり報告数は7.04となりました。しかし、依然高い値となっていますので、手洗いの励行や咳エチケット(マスク)を心がけ、感染予防に努めましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(A群溶連菌咽頭炎)が流行しています。近府県の中でも、奈良県が多くなっています。症状としては、2~5日の潜伏期間の後、突然38℃以上の発熱、咽頭発赤、莓状の舌などの症状が現れ、しばしばおう吐を伴います。重症化することや、合併症を引き起こすこともありますので、喉の痛みがあるときは、早めに医療機関を受診し、検査を受けるようにしましょう。治療には、抗菌剤を用います。症状が改善しても、医師に指示されたとおり薬を服用することが大切です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 2 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|-------------|----|----|----|-----|---------------------------------|
| A群ロタ | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| ノロ GII | | 2 | | | 感染性胃腸炎(2) |
| ムンプス B | 1 | | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| ムンプス G | 1 | 2 | | | 無菌性髄膜炎(2)、流行性耳下腺炎(1) |
| RS | | 2 | | | 気管支炎(2) |
| インフルエンザ AH3 | 4 | 2 | | | インフルエンザ(6) |
| パラインフルエンザ | 2 | 1 | | | インフルエンザ(1) |
| ライノ A | 1 | 1 | | 1 | RSウイルス感染症(1)、急性脳炎(1)、無菌性髄膜炎(1)※ |
| コクサッキーA | | | | 1 | 無菌性髄膜炎(1)※ |

※重複感染

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 10 週(3 月 6 日～ 3 月 12 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 5.19 | (7.04) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.44 | (2.74) | → | ↗ | ↗ | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.94 | (2.94) | ↗ | → | ↗ | ↗ |
| 4 | 流行性耳下腺炎 | 0.94 | (0.76) | → | ↓ | ↑ | ↑↑ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.53 | (0.21) | ↗ | → | → | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの患者報告数は、第6週以降減少を続けており、近府県すべてで定点あたり報告数が10を下回りました。しかし、定点あたり報告数が1.0を下回るまでは油断できません。引き続き、手洗いの励行や咳エチケット(マスク)を心がけ、感染予防に努めてください。

感染性胃腸炎が少し増加しています。春はロタウイルスによる感染性胃腸炎が増えます。ロタウイルスは通常、乳幼児を中心に流行し、発熱や嘔吐、白色の水様便を特徴とする下痢が症状としてあげられます。患者の便や嘔吐物には大量のウイルスが含まれています。トイレ後やおむつ交換後、食事の前はしっかりと手を洗いましょう。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)の報告は、特に中和保健所西部で多くなっています。感染を予防するためには、患者との濃厚接触を避け、うがい・手洗いを励行し、タオルなどは共有しないことが大切です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは3月になって減少傾向がはっきりしてきました。A型が大半で、現在のところB型の増加はみられません。今シーズンは小学校低学年以下の子の感染は少なく、中学生から成人に感染者が目立ちました。

インフルエンザの減少と逆に、感染性胃腸炎が小学生に増加してきました。RSウイルス感染症も保育園の幼児で増加しています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは激減したがまだ散見。Bが1例あった他はA型。軽症経過。感染性胃腸炎も流行中。今冬ロタはなかった。他の感染症は少ない。

南部地区(奈良県総合医療センター小児科)

インフルエンザの流行は落ち着きました。B型の流行はみられない。咽頭炎では溶連菌陽性例が多いが、一部ペニシリン系抗生剤でも発熱が遷延し入院となった。ウイルス性胃腸炎も増加しているが大きな流行ではない。咽頭結膜炎が散見された。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 11 週 (3 月 13 日 ~ 3 月 19 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 4.59 | (5.19) | ↓ | ↓ | ↓ | → |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.79 | (3.44) | → | → | → | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.59 | (2.94) | → | → | → | ↓ |
| 4 | 流行性耳下腺炎 | 1.03 | (0.94) | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 5 | RSウイルス感染症 | 0.68 | (0.32) | → | ↗ | ↘ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの患者報告数は、県内全体で徐々に減少していますが、吉野保健所管内では定点あたり報告数が 11.67 と注意報レベルとなっています。定点あたり報告数が 1.0 を下回るまでは、注意が必要です。手洗いの励行や咳エチケット(マスク)を心がけ、感染予防に努めてください。

A群溶連菌咽頭炎は、中和保健所西部では定点あたり報告数が 8.67 と警報レベルが続いています。咽頭痛があるときは、早めに医療機関を受診しましょう。

春休みに入ると、人が多く集まる場所へ外出する機会が多くなります。感染予防対策の基本である手洗い、うがいを忘れず行いましょう。

◆ 知っていますか？動物由来感染症 ◆

◎動物由来感染症とは？

動物から人に感染する病気の総称です。代表的なものとしては狂犬病が挙げられますが、他にも多くの感染症があります。動物が無症状でも、人に感染させることもありますので、注意してください。

◎日常生活での注意事項

- ・動物との過剰なふれあいは控えましょう
- ・動物に触ったら、必ず手洗いうがいをしましょう
- ・砂場や公園で遊んだら、必ず手を洗きましょう
- ・動物の身の回りは清潔にしましょう
- ・動物の糞尿は速やかに処理しましょう
- ・犬の登録と狂犬病予防注射を必ず受けましょう
- ・室内で鳥を飼育する時は換気が心がけましょう
- ・野生動物の家庭での飼育や野外での接触は避けましょう

【参考】厚生労働省 動物由来感染症

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekaku-kansenshou18/index.html



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 12 週 (3 月 20 日 ~ 3 月 26 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 3.37 | (4.59) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.24 | (2.79) | → | → | → | → |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.85 | (2.59) | → | → | → | → |
| 4 | 流行性耳下腺炎 | 0.88 | (1.03) | → | → | → | ↑ |
| 5 | RSウイルス感染症 | 0.53 | (0.68) | → | ↗ | ↘ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点あたり報告数は、県内全域で更に減少しました。しかし、定点あたり報告数が 1.0 を下回るまでは油断できません。もう少しの間、手洗いの励行や咳エチケット(マスク)を心がけ、感染予防に努めましょう。

A群溶連菌咽頭炎(A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)は、中和保健所西部では定点あたり報告数が 10.67 と高く、7週連続で警報レベルが続いています。例年、4月中旬頃から増え始め、6月にピークを迎える疾患です。今後、より増える可能性があるため、感染予防を心がけてください。予防としては、患者との濃厚接触を避けること、うがい・手洗いを励行すること、タオルなどの共用を避けることが大切です。治療には、抗菌剤が有効です。喉の痛みを感じたら、すぐに医療機関を受診し、検査を受けるようにしましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは週に一桁台の発症となっています。B型も出ていますが増加傾向はありません。感染性胃腸炎は、小学生以上成人まで発症がみられますが、こちらも多くありません。ロタウイルスを疑わせる症状の方は見当たりません。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

溶連菌感染症が依然多い。A型インフルエンザの流行も落ち着きつつあるも、流行している地域あり。B型はほとんど流行していない。胃腸炎は散発的にみられるが大きな流行はない。呼吸器疾患は花粉症に関連した軽症が多いが、症状は遷延する例あり。



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 13 週(3 月 27 日～ 4 月 2 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(3月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.50 | (3.24) | ➡ | ➡ | ➡ | ⬆ |
| 2 | インフルエンザ | 2.31 | (3.37) | ⬇ | ⬇ | ⬇ | ⬇ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.85 | (2.85) | ⬇ | ⬇ | ⬇ | ➡ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 0.65 | (0.53) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.59 | (0.88) | ⬇ | ➡ | ⬇ | ⬇ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆**急増、**⬆**増加、**➡**やや増加、**➡**横ばい、**⬇**やや減少、**⬇**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎は、先週からほぼ横ばいで例年並みのレベルですが、例年春先にはロタウイルス胃腸炎が流行します。保健研究センターの検査でも、ロタウイルスの検出が増えてきています。ロタウイルスは、ノロウイルスと同様に、患者の便には多量に排泄されており、また、軽快後もウイルス排出がしばらく続きます。排便後・おむつの交換後には、しっかりと手を洗いましょう。

A群溶連菌咽頭炎は、中和保健所の西部地域(旧葛城保健所)では、高いレベルが続いています。また、吉野保健所管内でも徐々に増加が見られます。手洗い、うがいなどの一般的な予防の励行が大切です。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 3 月)◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|---------------------|----|----|----|-----|---------------------------------------|
| インフルエンザ AH3 | 11 | 5 | | | インフルエンザ(15)、急性上気道炎(1) |
| インフルエンザ B (ピクトリア系統) | | 1 | | | インフルエンザ(1) |
| エコー 9 | 1 | 1 | | | 無菌性髄膜炎(2) |
| ライノ A | 1 | | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| アデノ 2 | | 1 | | | アデノウイルス感染症(1) |
| アデノ 3 | | 1 | | | 気管支炎(1) |
| アデノ 40/41 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| ノロ GII | 2 | | | | ロタウイルス腸炎疑い(1)、腸炎(1) |
| A群ロタ G2 | 1 | | | | ロタウイルス腸炎(1) |
| A群ロタ G3 | 1 | 2 | 1 | | 感染性胃腸炎(3)、ロタウイルス腸炎(1) |
| A群ロタ G9 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| サボ | 1 | | | | ロタウイルス腸炎疑い(1) |
| コクサッキー A群5型 | | 1 | | | 咽頭水泡(1) |
| ムンプス H | | 1 | | | 無菌性髄膜炎(ムンプス疑い)(1) |
| ヒトメタニューモ | | 4 | | | 急性気管支炎(1)、気管支肺炎(1)、ヒトメタニューモウイルス感染症(2) |
| RS | | 1 | | | 気管支炎(1) |
| ヒトヘルペス 6B | 1 | 1 | | | インフルエンザ(1)、急性脳症(1) |

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 14 週(4 月 3 日～ 4 月 9 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 29 年 3 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 4.65 | (3.50) | ⬆ | ⬆ | ⬆ | ⬆ |
| 2 | インフルエンザ | 2.06 | (2.31) | ⬇ | ⬇ | ⬇ | ⬇ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.00 | (1.85) | ⬇ | ➡ | ⬇ | ⬇ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 0.88 | (0.65) | ⬆ | ➡ | ⬆ | ➡ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 0.88 | (0.56) | ⬆ | ⬆ | ⬆ | ⬆ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **⬆**急増、**⬆**増加、**➡**やや増加、**➡**横ばい、**⬇**やや減少、**⬇**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎は、先週に引き続き増加しています。インフルエンザはほぼ横ばいで、A型ウイルスの流行は一時期よりは減っていますが、B型ウイルスが流行してくる頃になります。B型は、どちらかといえばA型よりは軽症で、発熱も高くはなく、インフルエンザと気づかず、治療や休業が遅れて流行が拡大・まん延する傾向にあります。秋の早めにワクチンを接種した方では、ワクチンの効果が弱まってきている可能性もあります。マスクの着用、こまめな手洗い、換気及び十分な休息を心がける様にしてください。

これから夏にかけて流行してくる咽頭結膜熱(プール熱)も徐々に増加しています。冬の感染症と夏の感染症がともに流行している時期です。手洗い・うがいの基本的な感染予防対策を続けましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数は春休みに入り減少しています。インフルエンザは減少していますが、まだあります。周辺の患者さんは、ほぼA型ですが、東日本からの方はB型ばかりです。感染性胃腸炎は乳幼児はほとんど無く、中学生以上成人にみられます。嘔吐、腹痛、発熱、激しい下痢の症状で未検査ですがロタウイルスを疑わせます。溶連菌咽頭炎が出てきています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。インフルエンザはほぼ終焉の様相であったが、保護者の話で園で散発しているとの情報あり。昨日小学1年生でインフルエンザB型陽性が1例、本日3才女児と母、祖母のインフルエンザA陽性の家族例があった。症状は一日の発熱その後の咳・微熱・倦怠感程度で、インフルエンザを疑わないで受診しない例もあると思われる。

感染性胃腸炎の流行あり。今冬ロタは少なかったが本日ロタ陽性の3才、1才の同胞例があった。

その他の感染症は少ない状況。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザはB型が増加するも、A型は大きく減少、全体としても減少してきている。胃腸炎もみられているが大きな流行ではない。

咽頭結膜熱や伝染性紅斑も散見される。依然として陽性例は多い。またペニシリン系抗生剤でも発熱遷延例もみられる。

ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について(厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 5.12 | (4.65) | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 2 | インフルエンザ | 2.07 | (2.06) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.79 | (2.00) | ↘ | → | ↘ | ↘ |
| 4 | RS ウイルス感染症 | 1.06 | (0.88) | ↑ | ↘ | ↑ | → |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.68 | (0.88) | ↗ | ↗ | → | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が、徐々に増加しています。この時期に流行するとされるロタウイルスによる胃腸炎が増加しているとみられます。ロタウイルスは主に乳幼児が感染する胃腸炎で、初めてかかったときに最も症状が重く、入院が必要になることもあります。ワクチン接種(飲むワクチン)により、入院するような重症化を防ぐことから、接種する方も増えてきています。保健研究センターの検査では、これまでとは異なる遺伝子型(ロタウイルスG2)のウイルスを昨年に引き続き検出しており、この遺伝子型のウイルスは、成人患者からも検出しています。患者便には、多量にウイルスが排泄されていますので、おむつ交換後やトイレの後には、丁寧な手洗いを心がけてください。

✦ ✦ ゴールデンウィークに海外へ渡航される方へ～感染症にご注意ください～ ✦ ✦

海外では、日本にはない病気がたくさんあります。海外旅行では、時差や気候の違いなどから、(自覚していなくても)様々なストレスを受けます。この結果、免疫力が低下し、病気にかかりやすくなってしまいます。無理のないスケジュールを心がけ、避けられる危険を避け、楽しい旅行にしましょう。

- 現地で気をつけること
 - ✓ 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、虫よけ剤を使うなどしましょう。(デング熱輸入症例の渡航先は、インドネシア(バリ島等)、フィリピン(セブ島等)が多い。)
 - ✓ 中東へ旅行する方はラクダとの接触や無殺菌のラクダ乳の摂取は避けましょう。
 - ✓ 動物は狂犬病、MERS や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、むやみに触らないようにしましょう。
- 出発前に確認しましょう→厚生労働省検疫所 海外旅行者のための感染症情報(検疫所 FORTH)
 - ✓ 渡航先で流行している感染症について
 - ✓ 渡航先で具合が悪くなったときのために、医療機関情報について
- 帰国時・帰国後に具合が悪くなったら
 - ✓ 帰国後に症状が出た方は、蚊に刺されないように注意し、病院受診の際に渡航歴を必ず話してください。受診方法で分からないときには検疫所または保健所にご相談ください。

参考:厚生労働省検疫所 (検疫所 FORTH) <http://www.forth.go.jp/index.html>

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 6.18 | (5.12) | ↑ | ↗ | ↑ | ↑↑ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.21 | (1.79) | → | ↗ | → | ↘ |
| 3 | インフルエンザ | 1.13 | (2.07) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 0.91 | (0.68) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 5 | RS ウイルス感染症 | 0.82 | (1.06) | → | → | ↗ | → |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓↓減少

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が増加しています。ロタウイルスによる感染性胃腸炎の流行が続いているようです。ロタウイルスは、1～2歳児を中心に流行するウイルスですが、保健研究センターの検査では、これまでより、年長の3～10歳からの検出も多くなっています。排便後や食事の前の手洗いを心がけましょう。咽頭結膜熱(プール熱)が徐々に増加しています。発熱、結膜炎、咽頭炎が主な症状です。ワクチンはありません。例年これから6月に向けて徐々に増加します。飛沫感染、接触感染などで広がります。タオルの共用は避け、基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

花粉症がらみの風邪や副鼻腔炎や喘息はよくみられますが、それ以外の感染症は多くありません。熱が持続し鼻汁と咳の保育園の幼児にRSウイルスやヒトメタニューモウイルス陽性例があります。ロタウイルス陽性の幼児もみられますが、ロタウイルスワクチン接種が普及していることで左程の流行にはならないようです。インフルエンザは局地的な流行がまだみられ、A型もB型もあります。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外気温の変動により感冒症状例が増加。インフルエンザの散発が続き、A型 B型双方が見られる。感染性胃腸炎の流行もありロタウイルス陽性もある。咳嗽例が乳児に多く、hMV陽性例もあった。他に流行性耳下腺炎がみられる。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザはほとんどみられなくなった。胃腸炎は増加、ノロウイルスの家族内感染も数件あり。ロタウイルス胃腸炎もみられたが、比較的軽症に経過した。アデノウイルス咽頭炎が多く、咽頭結膜熱発症し、高熱・食欲不振・熱性けいれん併発例もあった。溶連菌感染症も依然多くみられている。

厚生労働省

デング熱の感染もと ヒトスジシマカの発生源を叩け!

蚊に刺されないように寝よう
 蚊取り線香
 蚊よけスプレー
 蚊取り線香
 蚊よけスプレー
 蚊よけスプレー

今回の週報(第17週)は、平成29年5月9日(火)午後発行いたします。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 17 週(4 月 24 日～ 4 月 30 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 5.35 | (6.18) | ➡ | ➡ | ↗ | ↗ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.32 | (2.21) | ➡ | ➡ | ↗ | ↘ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 1.47 | (0.91) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 4 | インフルエンザ | 0.69 | (1.13) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 5 | 突発性発しん | 0.62 | (0.65) | ↗ | ↘ | ↑ | ↗ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱(プール熱)が増加しています。咽頭結膜熱は、アデノウイルスによる感染症です。5～7日の潜伏期間の後、発熱、頭痛、咽頭痛、結膜炎を伴う結膜充血、眼脂(目やに)が3～5日続きます。目の症状は、片方の目から始まり、その後他方にも出現します。予防には、患者との密接な接触を避けること、流行時期には、うがいや手指の消毒を励行することが大切です。消毒は、手指には流水と石けんによる手洗いや 90%エタノール、器具・環境には次亜塩素酸や煮沸消毒が有効です。消毒用エタノールは消毒効果が弱い事が知られています。飛沫感染や手指を介した接触感染(患者が目や鼻を触った手で何かを触る→それを触ったヒトがその手で目や鼻を触る)で感染します。患者の中心は、1～3歳です。おもちゃ・タオルの共用は避けましょう。

◆ お知らせ ◆

◆ マダニにご注意を!! ◆

- そろそろ、薄着の季節となりました。暖かくなると、マダニなどの活動が活発になります。
- マダニは、SFTS(重症熱性血小板減少症候群)や日本紅斑熱などの病気を媒介します。
- 農作業やハイキングなどで、草むら・野山に入るときは、肌の露出がないように長袖・長ズボンを着用するようにしましょう。また、肌が露出する部分(首など)は、虫除けスプレーが有効です。
- 帰宅時は、家の外で着衣をよく払い、室内にダニを持ち込まないようにするなどの注意も必要です。
- マダニは、袖口・裾口などから入り込み、皮膚の柔らかい部分で刺します。帰宅後に、ごま粒ほどのマダニに刺されていないか、全身を点検しましょう。マダニは吸血すると巨大化し、テントウムシぐらいの大きさになっていたりします。もし、マダニに刺されている場合には、丁寧に除去する必要がありますので、皮膚科などに受診してください。
- 全国で、SFTS患者は5月に最も多く発生しています。

マダニ対策、今できること(国立感染症研究所)
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-lab/478-ent/3964-madanitaisaku.html>

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 18 週(5 月 1 日～ 5 月 7 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 29 年 4 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 4.68 | (5.35) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.88 | (2.32) | ➡ | ➡ | ➡ | ↓ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 0.94 | (1.47) | ➡ | ↑ | ↓ | ↓ |
| 4 | 流行性耳下腺炎 | 0.71 | (0.41) | ➡ | ↗ | ↘ | ➡ |
| 5 | 手足口病 | 0.68 | (0.35) | ↗ | ↗ | ↗ | ➡ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

流行性耳下腺炎(おたふく風邪)の報告が、郡山保健所管内で増加しています。流行性耳下腺炎は、4～5年間隔で流行を繰り返している疾患です。昨年、県内では2009～2010年以降、7年ぶりの流行がみられました。不顕性感染(感染しているが症状のない状態)が、30～35%程度であるとされており、気づかない間に感染を拡げてしまい、集団感染につながることもあります。予防方法はワクチン接種で、1歳から任意接種となっています。

手足口病が増加しています。幼児を中心に夏季にピークのみられる疾患のため、今後の動向に注意が必要です。

インフルエンザなどの冬季に流行する感染症は減少傾向ですが、春から夏にかけて流行する感染症が増えてきます。手洗い、うがいを忘れず行いましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザは週に2～3人だがB型の感染が小学校高学年から中学生に出ています。保育園の幼児で38～39℃弛張熱と鼻汁と咳が4～5日続くヒトメタニューモウイルス感染症が流行しています。小学生以上から成人では咳と熱のマイコプラズマ肺炎が時にみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

咽頭発赤、高熱のアデノ様感染例が多いが、検査陽性例は多くなかった。インフルエンザは見られなくなった。感染性胃腸炎は連休前はロタウイルスが多かったが、ノロ陽性例は少なかった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

アデノウイルスによる夏カゼが増多。大部分が高熱中心の咽頭炎だが、白苔を伴う扁桃炎、咽頭結膜熱、出血性膀胱炎もみられた。インフルエンザが一部保育所で流行しているが、全体としてはほとんどの地区で流行はみられていない。感染性胃腸炎も増加。夏カゼに伴う胃腸炎やノロウイルスの家族内感染例も受診。入院加療を要した場合もあった。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 19 週(5 月 8 日～ 5 月 14 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(4 月)
- 保健研究センター5 月だより 今シーズンのA群ロタウイルスの解析状況について

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 7.24 | (4.68) | ↗ | ➡ | ↑ | ↑ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.38 | (1.88) | ➡ | ➡ | ➡ | ↑ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 1.53 | (0.94) | ↑ | ➡ | ↑ | ↑↑ |
| 4 | 水痘 | 0.56 | (0.21) | ↑ | ➡ | ↑ | ↑↑ |
| 4 | 突発性発しん | 0.56 | (0.62) | ➡ | ↗ | ➡ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎の報告は、再び増加しています。感染性胃腸炎は、ウイルス、細菌、寄生虫など様々な病原体により引き起こされます。食事の前や排便後の手洗いを行いましょう。

咽頭結膜熱が増加しています。感染力は非常に強く、飛沫感染や接触感染により拡がります。家族で同じタオルを使用していると、一人の感染から家族全員が感染してしまうということもあります。タオルの共有は避けましょう。また、プールや温泉施設では、利用の前後にシャワーを浴びるなどの予防対策を行って下さい。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 4 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------|-------|----|----|-----|--------------------------------------|
| A群ロタ | G1 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| A群ロタ | G2 | 18 | 11 | | 感染性胃腸炎(4)、ロタ腸炎(25) |
| A群ロタ | G3 | 5 | 4 | | 感染性胃腸炎(1)、ロタ腸炎(8) |
| アストロ | | 2 | | | 感染性胃腸炎(2) |
| インフルエンザ | AH3 | 6 | 2 | | インフルエンザ(7)、ウイルス性筋炎(1) |
| ヒトメタニューモ | | 5 | | | 気管支炎(2)、急性上気道炎(1)、肺炎(1)、気管支肺炎(1) |
| コクサッキーA群 | 6 | 1 | | | 手足口病(1)* |
| ライノ | A | 2 | | | 肺炎(1)、手足口病(1)* |
| ライノ | C | 4 | | | 急性気管支肺炎(1)、発疹症(1)、気管支肺炎(1)、気管支炎(1)** |
| アデノ | 2 | 1 | | | 気管支炎(1)** |
| アデノ | 3 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| アデノ | 40/41 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| 水痘・帯状疱疹 | | 2 | | | 発疹症(2) |
| ムンプス | G | 1 | | | ムンプス髄膜炎(1) |

*、**重複感染

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 20 週(5 月 15 日～ 5 月 21 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 6.56 | (7.24) | ➡ | ↗ | ➡ | ➡ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.06 | (2.38) | ↗ | ↑ | ➡ | ↑↑ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 1.41 | (1.53) | ↗ | ↑ | ↗ | ↓ |
| 4 | 手足口病 | 1.12 | (0.47) | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ➡ |
| 5 | 突発性発しん | 0.85 | (0.56) | ↑ | ↑ | ➡ | ↑ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱の報告数が多い状況が続いています。定点当たり報告数は、近府県の中で奈良県が最も多くなっています。

手足口病が増加しています。大阪府や京都府は、定点当たり報告数が2.0を超えています。今後さらに流行が広がる可能性があるため、動向に注意が必要です。

咽頭結膜熱や手足口病は、いずれも5歳以下の子どもが夏にかかりやすい感染症です。手洗い、うがいを行い、タオルの貸し借りは避けましょう。また、子どもから大人に感染することもあるため注意が必要です。

♣ 小児科外来情報 ♣

北部地区(矢追医院)

GW 後で感染症は減少しています。インフルエンザはもうそろそろ無くなりそうですが、迅速検査では B 型が検出されています。

感染性胃腸炎が少数ですがあります。中学生以上では細菌によるもの、小学生以下はウイルスによるものと思われまます。ロタウイルスは減少しています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザは散発の情報あるも先々週を最後に見られていない。
 夏風邪、アデノ様の咽頭発赤例が多いがアデノ陽性例は少ない。
 感染性胃腸炎が流行、水様下痢、発熱があり、ロタ陽性例が乳児ばかりでなく幼児、幼稚園児にも多く、成人へ感染し家族内感染例もあった。
 ノロ様の嘔吐例あるも検査実施例は少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザが一部地域で流行している。
 溶連菌感染症は増加、アデノウイルス感染症はやや減少。ヘルパンギーナや手足口病の流行はない。
 夏カゼによると思われる髄膜炎あり。
 熱、嘔吐に加え下痢の遷延する胃腸炎が増えてきた。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 21 週 (5 月 22 日 ~ 5 月 28 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

- 蚊媒介感染症について ~ジカ熱・デング熱対策~

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 8.03 | (6.56) | ↗ | → | ↗ | ↑ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.47 | (3.06) | → | → | → | ↗ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 1.59 | (1.41) | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ |
| 4 | 手足口病 | 0.76 | (1.12) | ↗ | → | ↑↑ | → |
| 5 | 突発性発しん | 0.59 | (0.85) | → | → | → | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱が増加しています。郡山保健所管内では、定点あたり報告数が 3.22 となっており警報レベルとなっています。咽頭結膜熱は、プールでの感染があることからプール熱とも呼ばれています。保育所や幼稚園、小学校での水遊びやプールの授業が始まると、感染が広がる可能性があります。プールなどの前後はシャワーを浴び、タオルの共有は避けるようにしましょう。

感染性胃腸炎の報告が、中和保健所管内西部地域で増加しています。集団生活の場では、感染拡大が懸念されます。集団感染を引き起こさないよう、糞便や嘔吐物の処理・消毒方法を確認しておきましょう。

◆ 蚊媒介感染症について ~ジカ熱・デング熱対策~ ◆

蚊媒介感染症とは、病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症のことです。主な蚊媒介感染症には、ウイルス疾患であるデング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症(ジカ熱)、日本脳炎、ウエストナイル熱、黄熱、原虫疾患であるマラリアなどがあります。これらの感染症は主に熱帯、亜熱帯地域で流行しています。

【対策法】

- 屋外の蚊が多くいる場所で活動する場合は、できるだけ肌を露出せず、虫よけ剤を使用しましょう。
- 蚊媒介感染症の流行地に渡航する場合は、現地で蚊に刺されないように注意しましょう。
- ジカウイルス感染症は、妊娠中の母親からお腹の赤ちゃんに感染する可能性があります。妊婦や妊娠の可能性のある人、そのパートナーは特に注意しましょう。
- 日本にも生息するヒトスジシマカは、狭い水たまりのような場所で産卵し、増殖します。家の周囲を点検して不要な水たまりをなくすことが、ヒトスジシマカの発生を抑え、感染拡大を防ぐことにつながります。

【参考】

- 蚊媒介感染症(厚生労働省)
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164483.html>
 ジカウイルス感染症(厚生労働省検疫所 FORTH)
<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name80.html>
 デング熱(厚生労働省検疫所 FORTH)
<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name33.html>



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 22 週 (5 月 29 日 ~ 6 月 4 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 29 年度 5 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 7.91 | (8.03) | ↗ | → | ↗ | ↘ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.12 | (2.47) | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 1.53 | (1.59) | → | → | ↗ | ↑ |
| 4 | 手足口病 | 1.12 | (0.76) | ↑ | ↗ | ↑↑ | → |
| 5 | 水痘 | 0.65 | (0.35) | ↗ | ↑ | ↑ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱(プール熱)は、引き続き高いレベルで推移しています。近府県の中でも、奈良県の定点あたり報告数が最も多くなっています。プールの前後はシャワーを浴び、タオルの共有は避けましょう。

A 群溶連菌咽頭炎(A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎)は、中和保健所管内西部地域で、報告数の多い状況が続いており、定点あたり報告数が 8.17 と警報レベルです。患者年齢は就学前が多くなっています。

これから暑くなると、咽頭結膜熱や手足口病が増加します。日頃から、基本的な感染症予防対策(手洗い・うがい)に努めましょう。

❖ 小児科外来情報 ❖

北部地区(矢追医療)

外来患者数は少なめである。インフルエンザはそろそろ無くなりそうなのだが、未だに週 2 人前後みられる。気温が高いせいか罹患者の症状は軽いので疑わないと診断出来ない。アデノウイルス感染症が保育園の幼児で増えてきた。症状は高熱と咳と鼻汁があり、球結膜の充血や咽頭の発赤はみられず、こちらも疑って検査をしなければ判断しがたい。感染性胃腸炎はノロウイルスと思われるものが小流行している。ロタウイルスはみられなくなった。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

夏風邪のパターンになって来た。アデノ様咽頭、高熱例が多いがキット陽性例は少ない。ヘルパンギーナ、手足口病が見られるようになった。感染性胃腸炎が持続、ノロ様が多い。発熱例もある。ロタは前週にはまだあった。インフルエンザはほぼ終了した印象。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

溶連菌、アデノウイルス感染の流行が続く。ヘルパンギーナも増加してきたが、手足口病はあまりみられない。夏かぜに由来すると思われる胃腸炎も多いが、比較的軽症に経過している。マイコプラズマかヒトメタニューモウイルスによる咳嗽の遷延例では、入院加療を必要とする場合もみられた。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 23 週 (6 月 5 日～ 6 月 11 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(5 月)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 7.24 | (7.91) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.24 | (3.12) | ↗ | ↗ | ➡ | ➡ |
| 3 | 手足口病 | 1.74 | (1.12) | ↑ | ↑ | ↑↑ | ➡ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 1.68 | (1.53) | ↗ | ↗ | ➡ | ➡ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.71 | (0.38) | ↗ | ➡ | ↑ | ➡ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**➡やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

咽頭結膜熱は、近府県の中でも報告数の多い状態が続いており、県内では郡山保健所管内で多くなっています。プールの前後はシャワーを浴び、タオルの共有は避けましょう。
 手足口病が増加しています。過去10年平均では、7月頃にピークを迎える疾患で、今後増加していくと予想されます。手足口病は、治った後も比較的長い期間、便の中にウイルスが排泄されるので、トイレやおむつ交換の後はしっかりと手洗いをしてください。
 梅雨入りすると寒い日もあり、気温差により体調を崩しやすくなります。手洗い・うがい、規則正しい生活習慣などを心がけ、日頃から感染症予防に努めましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 5 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------------|----|----|----|-----|----------------------------------|
| A群ロタ G2 | 13 | 5 | 1 | | 感染性胃腸炎(16)、ロタ腸炎(3)※ |
| A群ロタ G3 | 1 | 3 | | | 感染性胃腸炎(3)、ロタ腸炎(1) |
| A群ロタ G9 | 1 | 1 | | | ロタ腸炎(1) |
| ムンプス B | 1 | | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| アデノ 1 | | | | 1 | アデノ咽頭炎・肺炎(1) |
| アデノ 2 | | 2 | | | 感染性胃腸炎(2) |
| アデノ 3 | 2 | 2 | | | 感染性胃腸炎(1)、流行性角結膜炎(1) ロタ腸炎(2)※ |
| アデノ 40/41 | 2 | 2 | | | 感染性胃腸炎(4) |
| インフルエンザ AH1pdm | | 2 | | | インフルエンザ(2) |
| エコー 6 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| サイトメガロ | 1 | 1 | | | 異形水痘疑い(1)、HHV-6脳炎(1)※※ |
| ノロ GII.4 | | | 1 | | 感染性胃腸炎(1) |
| ライノ A | 1 | 1 | | | 急性気管支炎(1)HHV-6脳炎(1)※※ |

※、※※ 重複感染

奈良県感染症情報

平成 29 年 24 週 (6 月 12 日～ 6 月 18 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 8.97 | (7.24) | ↗ | ➡ | ↗ | ↓ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.50 | (3.24) | ↗ | ↗ | ↗ | ➡ |
| 3 | 手足口病 | 2.44 | (1.74) | ↑ | ↗ | ↑↑ | ➡ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 1.44 | (1.68) | ➡ | ➡ | ➡ | ↓ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.65 | (0.71) | ➡ | ↑ | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**➡やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

A群溶連菌咽頭炎は、中和保健所管内西部地域で報告数の多い状態が続いています。喉の痛みを感じたら、すぐに医療機関を受診しましょう。
 手足口病が増加しています。中和保健所管内東部地域では、定点当たり報告数が6.00と警報レベルです。患者年齢は、2歳以下が8割以上を占めており、保育施設などでの流行が懸念されます。手足口病は、口内や手足に水疱性の発疹が現れるウイルス感染症で、夏に流行します。回復後も比較的長い期間、便の中にウイルスが排泄され、また、感染しても発病しないままウイルスを排泄している場合もあるので、日頃からタオルの共有は避け、基本的な感染予防対策(手洗い・うがい)を心がけましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

【北部地区(矢追医院)】

外来患者数はあまり多くはない。アデノウイルス感染症の流行が続いている。症状は咽頭の発赤と黄白色の膿のみられる典型的な場合もあるが、咽頭発赤は軽度で鼻汁と咳があり感冒様症状のみの場合もあり、39度前後の発熱を繰り返すだけのものも多い。球結膜の充血もあまり目立たない。手足口病も先週はみられたが今週は無いといった流行前の様相である。今週になり感染性胃腸炎(ノロウイルスと思われる)が保育園の幼児から小学校の子に広がってきている。症状は従来通りで発熱1日前後、嘔吐と腹痛で始まり、下痢が続く。インフルエンザは完全にみられなくなった。

【南部地区(南奈良総合医療センター小児科)】

アデノウイルス感染症が増加している。咽頭扁桃炎、咽頭結膜熱、胃腸炎、出血性膀胱炎も併発している。
 また、他の夏カゼによる胃腸炎も増加しているが、比較的軽症に経過している。
 ヘルパンギーナも散見されはじめたが、手足口病の流行はない。遷延する咳嗽にはマイコプラズマ陽性例が認められる。ヒトメタニューモウイルスは多くない。



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 25 週 (6 月 19 日～ 6 月 25 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

- 気をつけたい夏の感染症～咽頭結膜熱・手足口病・ヘルパンギーナ～

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 8.00 | (8.97) | ➡ | ➡ | ➡ | ⬇ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.21 | (3.50) | ➡ | ↗ | ➡ | ⬇ |
| 3 | 手足口病 | 2.00 | (2.44) | ↗ | ↑ | ➡ | ➡ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 1.50 | (1.44) | ➡ | ➡ | ➡ | ⬇ |
| 5 | 流行性耳下腺炎 | 0.71 | (0.65) | ➡ | ↗ | ⬇ | ↑ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**⬇やや減少**、**⬇減少**

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎は、例年のこの時期と比べ、報告数が多くなっています。感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌、寄生虫などの病原体により引き起こされます。夏場は食品が傷みやすい季節であり、細菌も繁殖しやすくなります。調理前後やトイレの後はしっかりと手を洗い、食品は十分に加熱調理しましょう。また、使用した調理器具等の消毒も大切です。

咽頭結膜熱は、今週も報告数が多く、高いレベルで推移しています。近府県の中でも、奈良県の定点当たり報告数が最も多くなっています。患者は、未就学児で多くなっています。

手足口病は今後、更に増加していくと予想されます。予防には、手洗い・うがいを徹底することが大切です。

◆ 気をつけたい夏の感染症 ◆ ～ 咽頭結膜熱・手足口病・ヘルパンギーナ ～

咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナは夏期に流行する感染症です。6月頃から乳幼児を中心に患者数が増えはじめ、7～8月にピークとなります。これらの感染症は主に乳幼児が感染しますが、子どもから大人に感染することもあるため注意が必要です。

- ◆ 咽頭結膜熱・・・発熱、のどの痛み、目の充血などがみられます。
- ◆ 手足口病・・・手、足、口の中に水疱ができます。まれですが、合併症として急性脳炎や心筋炎があります。
- ◆ ヘルパンギーナ・・・高熱、のどに水疱ができて痛みます。

【予防法】

これらの疾患は、患者の鼻やのどの分泌物のほか、便、水疱内容物を介して感染が拡がります。

- ① 手洗い・うがいをしっかりとしましょう。
- ② タオルやおもちゃの共有は避けましょう。
- ③ 咳エチケットを心がけましょう(マスク、人に向けて咳やくしゃみをしないなど)。

【参考】

厚生労働省感染症情報

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/index.html



奈良県感染症情報

平成 29 年 26 週 (6 月 26 日～ 7 月 2 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 6.85 | (8.00) | ➡ | ➡ | ➡ | ⬇ |
| 2 | 手足口病 | 3.82 | (2.00) | ↑ | ↑ | ↑ | ➡ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 3.47 | (3.21) | ➡ | ➡ | ➡ | ↗ |
| 4 | 咽頭結膜熱 | 1.24 | (1.50) | ⬇ | ⬇ | ➡ | ⬇ |
| 5 | ヘルパンギーナ | 1.21 | (0.26) | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**➡横ばい**、**⬇やや減少**、**⬇減少**

◆ 県内概況 ◆

手足口病の報告が増加しています。郡山保健所管内では、定点当たり報告数が警報開始基準値の 5.0 を超え、警報レベルです。また、中和保健所管内東部地域では、第 24 週から警報レベルが続いています。その他の地域でも報告数は増加傾向です。手足口病は、コクサッキーA 群やエンテロウイルス 71 などエンテロウイルスが原因の疾患です。保健研究センターでは、手足口病と診断された検体から、コクサッキーA 群 6 型やライノウイルスを検出しています。

ヘルパンギーナの報告が増加しています。ヘルパンギーナと手足口病は、ともに口腔内に水疱性発疹が出現します。口腔内の痛みから、食事や水分補給が十分にできず、脱水症状になることもあるため、注意が必要です。手洗い、うがい、咳エチケットを行い、予防しましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

外来患者数はあまり多くない日が続いています。溶連菌咽頭炎が小学校低学年を中心に流行がみられます。感染性胃腸炎は保育園から小学生でウイルス性が、中学生以上でカンピロバクタ等細菌性が増えてきました。熱が 1 日程度で口内炎と四肢の水疱を伴う紅斑様発疹の手足口病が保育園児で流行しています。また、高熱以外所見に乏しいいわゆる夏風邪もみられます。アデノウイルス感染症(咽頭結膜熱)は減少してきました。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。アデノ感染症は減少してきた。ヘルパンギーナはまだ殆どない。手足口病も典型的なものはまだない。

A 群溶連菌感染症がほんの少し。感染性胃腸炎があり嘔吐でノロ様、家族内感染もある。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

夏カゼが増加している。早くより始まっているアデノウイルスに加え、ヘルパンギーナや手足口病も増えてきた。また髄膜炎様の症状で発症する例もある。水痘様の発疹の手足口病もあり、鑑別が難しかった。

溶連菌感染症の流行は依然続いている。下痢、嘔吐を伴う咽頭炎や細菌性腸炎もあり、便性確認が必須であった。

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(6 月)

手足口病警報発令です！！

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|-----|-----|-----|-----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 6.79 | (6.85) | → | → | → | ↓ |
| 2 | 手足口病 | 6.12 | (3.82) | ↑↑↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.62 | (3.47) | ↓ | → | ↓ | ↓ |
| 4 | ヘルパンギーナ | 1.26 | (1.21) | ↑↑↑ | ↑↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.88 | (1.24) | ↓ | ↓ | → | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病の定点当たり報告数が、警報開始基準値の 5.0 を超えました。県内すべての地域で報告数は増加しています。特に郡山保健所管内、中和保健所管内東部地域(旧桜井)で報告数の多い状況です。本県の第1週からの手足口病累計報告数のうち、年齢別では1～2歳児が多く、性別はやや男児が多く、全国と同じ傾向です。手足口病は、2011年、2013年、2015年にも全国的に報告数が多く、2年間隔で流行を繰り返しています。手足口病の流行は、しばらくの間続くことが予想されます。手洗いをを行い、タオルの共用は避け、予防に努めましょう。また、大人が感染することもあるため、おむつの処理後には必ず手洗いをを行うなど注意して下さい。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 6 月) ◆

*ウイルス分離同日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------------|-------|----|----|-----|---|
| ノロ GII.2 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| ノロ GII.4 | 3 | 2 | | 1 | 感染性胃腸炎(6) |
| A群ロタ G3 | 1 | 2 | | | ロタ腸炎(2)、感染性胃腸炎(1)* |
| A群ロタ G9 | | 4 | | | ロタ腸炎(3)、感染性胃腸炎(1) |
| サポ | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1)* |
| アストロ | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| ライノ A | 1 | 6 | | | 急性気管支炎(1)、感冒(1)、発疹症・気管支炎(1)、肺炎(1)、ヘルパンギーナ(1)、手足口病(1)、けいれん重積・脳症(1) |
| ライノ C | | 1 | | | 手足口病(1) |
| コクサッキーA群 | 6 | 1 | 3 | | 手足口病(2)、ヘルパンギーナ・発疹症(1)、発疹症(1) |
| エコー | 9 | 1 | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| アデノ | 1 | 2 | | | 感染性胃腸炎・アデノウイルス咽頭炎(1)、感染性胃腸炎(1) |
| アデノ | 3 | 1 | | | インフルエンザ・咽頭結膜熱(1) |
| アデノ | 5 | 1 | | | 感染性胃腸炎・アデノウイルス咽頭炎(1) |
| アデノ | 40/41 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| ムンプス H | | 1 | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| インフルエンザ AH1pdm | | 1 | | | インフルエンザ(1) |
| 水痘・帯状疱疹 | | 1 | | | 無菌性髄膜炎(1) |

*重複感染

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 29 年度 6 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

手足口病警報発令中です！！

手足口病は、定点当たり報告数が終息基準値の「2.0」を下回るまで警報発令が続きます。手洗いをを行い、感染拡大防止に努めましょう！

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|-----|----|-----|-----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 8.62 | (6.12) | ↑↑↑ | ↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.91 | (6.79) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.06 | (2.62) | ↓ | ↓ | → | → |
| 4 | ヘルパンギーナ | 1.59 | (1.26) | ↑↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.47 | (0.88) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病の報告数は、先週よりもさらに増加しています。近府県も警報レベルとなっており、流行はしばらくの間続くことが予想されます。手足口病の原因ウイルスは複数あるため、一度感染しても再び感染してしまうことがあります。こまめに手洗いを行うようにしましょう。発症した場合には、口の中や喉の痛みから食べ物や飲み物を受けつけず、脱水症状を起こすことがあります。刺激が少なく、痛まずに飲み込めるものを取るようして下さい。また症状がなくなった後も、便や鼻汁などからウイルスが排泄されることがあるため、注意が必要です。ヘルパンギーナの報告が増加傾向です。ヘルパンギーナは、手足口病同様に代表的な夏風邪の一種です。手洗いをを行い予防に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

感染症は全体としては少ないが、保育園児で手足口病の流行は続いている。熱は 38～39℃が 1 日程度あり、初期は咽頭所見はまばらな発赤が確認され、下熱後口内炎がはつきりしてくる。下肢と前腕部の水泡性発疹も同様である。数は多くないが水痘ワクチン 2 回既接種の子で水痘発症者がみられるようになっている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は多くない。発熱、咽頭発赤の夏風邪が多い。アデノ陽性例はそう多くない。感染性胃腸炎が小流行。嘔吐が多くノロ様、検査実施例は少なく陽性例も少ない。手足口病が増加。発疹の少ない例が多い。他に A 群溶連菌感染症が少し。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

ヘルパンギーナが流行中。手足口病も増加している。アデノウイルス感染症は減少傾向。例年より手足口病の発熱、発疹が強い。ウイルス性胃腸炎も多く、水様下痢が遷延している。便のロタ、アデノ、ノロ迅速検査は陰性であった。

奈良県感染症情報

平成 29 年 29 週(7 月 17 日～ 7 月 23 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 夏休み海外へ渡航されるみなさまへ

手足口病警報発令中です！！

手足口病は、定点当たり報告数が警報基準値の「2.0」を下回るまで警報発令が続きます。
 手洗いをを行い、感染拡大防止に努めましょう！

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 7.41 | (8.62) | ↑↑ | ↗ | ↑ | ↗↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.09 | (3.91) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.32 | (2.06) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 4 | ヘルパンギーナ | 1.21 | (1.59) | ↗ | → | ↗ | ↑ |
| 5 | 咽頭結膜熱 | 0.50 | (0.47) | ↓ | ↓ | ↓ | → |

発生状況： **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

手足口病は、報告数の多い状況が続いています。特に奈良市、中和保健所管内からの報告が多くなっています。手足口病は予防接種がなく、予防法は手洗いをしっかり行うことです。流水、石けんによる手洗いをしっかり行い、タオルやおもちゃの共用はやめて下さい。また、大人も感染することがあるため、おむつの処理後に必ず手洗いを行いましょう。

夏休みに入り、人混みの中へ出かけることも多くなるかと思えます。帰宅時には、手洗い、うがいをを行うなど感染症対策を心がけましょう。

◆夏休み海外へ渡航されるみなさまへ◆

①出発前に確認しておきたいこと

- 渡航先で流行している感染症について
- 渡航先の医療機関情報について

②旅行中に注意すべきこと

- 生水・氷・カットフルーツの入ったものを食べることは避けましょう。
- 食事は十分に火の通った信頼できるものを食べましょう。
- 蚊・ダニに刺されないように、服装に注意し、必要があれば虫よけ剤を使うなどしましょう。
- 動物は狂犬病、MEERS や鳥インフルエンザなどのウイルスをもっていることがあるので、無暗に触らないようにしましょう。
- 薬物やゆきすりの性交渉で感染し、一生の後悔をすることのない行動をとりましょう。

参考リンク集

FORTH/厚生労働省検疫所

<http://www.forth.go.jp/news/2017/07071520.html>

厚生労働省

http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/travel-kansenshou.html



奈良県感染症情報

平成 29 年 30 週(7 月 24 日～ 7 月 30 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

手足口病警報発令中です！！

定点当たり報告数が警報基準値の「2」を下回るまで警報発令が続きます。
 手洗いをを行い感染予防に努めましょう！

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 10.88 | (7.41) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.91 | (3.09) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.68 | (1.32) | ↓ | ↓ | ↓ | → |
| 4 | ヘルパンギーナ | 1.50 | (1.21) | ↗ | ↑ | → | ↑ |
| 5 | RSウイルス感染症 | 0.88 | (0.35) | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | → |

発生状況： **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↓やや減少、↓↓減少

◆県内概況◆

手足口病は、依然報告数が多い状況が続いており、先週よりもさらに増加しています。特に中和保健所管内からの報告が多くなっています。

RSウイルス感染症が先週より増加しています。大阪府、和歌山県でも多くなっています。症状は、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々ですが、特に乳児期早期(生後数週間～数か月間)にRSウイルスに感染した場合は重篤な症状を引き起こすことがあります。乳児期早期のお子さんがいらっしゃる場合には、注意が必要です。マスクを着用し、おもちゃ・手すりなどをアルコールや塩素系の消毒剤で消毒しましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

夏休みになり手足口病を筆頭に感染症は全て減少しているなか、ヘルパンギーナが出てきている。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

手足口病が大流行中。高熱が1日程度先行する例が多いが、咽頭は発赤とヘルパンギーナ(アフタなし)の前兆を思わせるような特徴的な所見の例が多い印象。発疹は膝周辺から見られる場合が多く、保護者への観察のポイントとして説明している。無熱、発疹の少ない軽症例も多いが、2～3mmの水疱・かさぶたの間の地肌に細かい小丘疹が密集する例が稀にあった。重症例はなかった。

ヘルパンギーナはまだ少ない。他に感染性胃腸炎が流行中。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

アデノウイルス感染は減少してきたが、手足口病やヘルパンギーナの流行は続いている。発熱が先行する例が多く、診断が遅れる場合もある。高熱遷延例もあるが髄膜炎の合併はあまり多くない。

夏カゼ由来と思われる胃腸炎も多い。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 31 週 (7 月 31 日 ~ 8 月 6 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(7月)

手足口病警報発令中です！！

定点当たり報告数が警報終息基準値の「2」を下回るまで警報発令が続きます。
 手洗いをを行い感染予防に努めましょう！

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 10.82 | (10.88) | ↗ | ↗ | ↗ | ↗↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.09 | (2.91) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.53 | (1.68) | ↘ | ↘ | → | → |
| 4 | ヘルパンギーナ | 1.41 | (1.50) | → | ↗ | → | ↘ |
| 5 | RSウイルス感染症 | 1.12 | (0.88) | ↗↗ | ↗↗ | → | → |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

手足口病の定点当たり報告数が、先週と同様 10.0 を超えています。特に南部地域で増加が大きい状況です。流行はしばらくの間続くことが予想されます。症状がなくなった後も咽頭から 1~2 週間、便から 2~4 週間ウイルスが排出されるため、しっかりと手洗いをを行い感染拡大防止に努めましょう。

RSウイルス感染症が増加しています。夏頃から報告数の増加傾向がみられる疾患であり、今後注意が必要です。発症の中心は 0 歳児と 1 歳児です。咳等の呼吸器症状を認める年長児や成人は、可能な限り 0 歳児と 1 歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 7 月)◆

*ウイルス分離同日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------|--------|----|----|-----|--|
| ノロ GII.4 | | 2 | | | 感染性胃腸炎(2) |
| ノロ GII.3 | | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| サボ | | | 1 | | 感染性胃腸炎(1)* |
| アデノ | | 2 | | | 感染性胃腸炎(1)、急性気管支炎(1) |
| アデノ | 40/41 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| ムンプス | G | 1 | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| インフルエンザ | AH1pdm | 1 | | | インフルエンザ(1) |
| エコー | 9 | 1 | | | 記載無し(1) |
| パルボ | B19 | 1 | | | 発疹症(1) |
| ライノ | 2 | 17 | 1 | | 気管支炎(3)、咽頭炎(1)、気管支肺炎(3) 咽頭炎・熱性けいれん(1)、急性気管支炎(2) ジアンロッティ症候群(1)、手足口病(5)* 発疹症(1)、記載なし(3) |
| コクサッキー | A6 | 1 | | | 手足口病(1)* *重複感染 |

奈良県感染症情報

平成 29 年 32 週 (8 月 7 日 ~ 8 月 13 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 29 年度 7 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

手足口病警報発令中です！！

定点当たり報告数が警報終息基準値の「2」を下回るまで警報発令が続きます。
 手洗いをを行い感染予防に努めましょう！

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|---------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 4.68 | (10.82) | ↘ | ↘ | ↘ | ↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.32 | (3.09) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.00 | (1.53) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 4 | RSウイルス感染症 | 0.91 | (1.12) | ↗ | ↘ | ↗ | ↗↗ |
| 5 | ヘルパンギーナ | 0.65 | (1.41) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆県内概況◆

手足口病の報告数は、先週の半分以下に減少しました。しかし、警報の終息基準値である定点あたり患者報告数2を下回ってはならず、感染拡大に注意が必要です。吉野・内吉野保健所管内以外では全般に報告数が1/3~1/4程度になりましたが、中和保健所管内西部地域では先週の8割程度にとどまっています。帰省シーズンはもう終わりかけですが、高齢者が孫から感染する場合があります。引き続き手洗いやおむつの処理に気をつけてください。

手足口病と同様に夏かぜの代表的疾患であるヘルパンギーナは第 26 週以来の減少でした。発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹が特徴です。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

夏休みも 8 月となり、集団生活をしている保育園児による感染症以外ほとんどありません。手足口病の流行が続いています。ヘルパンギーナも徐々に増えてきました。両疾患とも原因ウイルスはおそらく同一と思われます。受診時のタイミングで診断が異なっているかもしれません。高熱と湿性の咳と鼻汁が持続する RSウイルス感染症が出てきています。

南部地区(奈良総合医療センター小児科)

手足口病が大流行中。手足末端から肘、上腕、大腿、臀部や胸背部口周囲と広い範囲に水疱、また高熱も続いている。他の夏かぜは減少した。また南部の保育所では RSウイルス感染症が多数みられ入院例も複数でている。



奈良県感染症情報

平成 29 年 33 週 (8 月 14 日 ~ 8 月 20 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- ヨーロッパ地域における麻疹患者報告数の増加に伴う海外渡航者への注意喚起

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|-----|----|-----|-----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 4.68 | (4.68) | ↘ | ↘ | ↓ | ↓ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 3.15 | (2.32) | → | → | → | ↘ |
| 3 | RSウイルス感染症 | 2.06 | (0.91) | ↑↑↑ | ↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ |
| 4 | ヘルパンギーナ | 1.32 | (0.65) | → | → | ↗ | ↓ |
| 5 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.09 | (1.00) | ↘ | ↘ | ↘ | ↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病の定点あたり患者報告数は、先々週から先週にかけて大きく減少しましたが、今週は減少がみられず、依然、例年に比べて高い水準で推移しています。

RSウイルス感染症がやや流行している状況です。全国的にも、RSウイルス感染症の報告が増加しています。通常冬に流行する感染症ですが、年々流行の始まりが早くなる傾向にあります。RSウイルスにはワクチンがありません。感染や拡大予防として、咳やくしゃみのエチケットを心がけ、手指や物品(ドアノブ、手すり、スイッチ、机、椅子、おもちゃ、コップ等)の消毒をこまめに行いましょう。

◆ヨーロッパ地域における麻疹患者報告数の増加に伴う海外渡航者への注意喚起 ◆

麻疹ウイルスは感染力がウイルスの中で最も強く、麻疹を発症している人と同じ部屋にいただけで感染することがあります(空気感染)。また、免疫を持っていない人が感染するとほぼ 100%発症し、多量のウイルスを排出して周囲に拡大することもあります。



麻疹(はしか)はインド、中国をはじめとして、海外の多くの国で、普通に流行しています。近年、特にルーマニアとイタリアでは、大規模な流行が発生しています。昨年、海外からのウイルス輸入例を発端として集団発生事例が起こっています。

渡航予定の方は・・・

- 麻疹(はしか)にかかったことが明らかでない場合、渡航前には、麻疹(はしか)の予防接種歴(記録)を母子手帳などで確認し、2回接種していない場合は予防接種を検討してください。
- 麻疹(はしか)の既往歴や予防接種歴が不明の場合は抗体検査を検討してください。
- 帰国後には、2週間程度は麻疹(はしか)発症の可能性も考慮して健康状態に注意してください。

【参考】厚生労働省 麻疹について
http://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/measles/index.html

奈良県感染症情報

平成 29 年 34 週 (8 月 21 日 ~ 8 月 27 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

手足口病警報発令中です!!

定点当たり報告数が警報終息基準値の「2」を下回るまで警報発令が続きます。
 手洗いをを行い感染予防に努めましょう!

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 2.82 | (3.15) | → | ↗ | ↘ | ↓ |
| 2 | 手足口病 | 2.12 | (4.68) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 3 | RSウイルス感染症 | 1.24 | (2.06) | → | → | ↗ | ↓ |
| 4 | ヘルパンギーナ | 0.71 | (1.32) | ↘ | ↓ | ↘ | ↓ |
| 5 | 突発性発しん | 0.68 | (0.47) | ↑ | ↗ | ↑ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

手足口病は減少していますが、定点あたり報告数が2を下回るまで警報は継続しています。手洗いがいを行い感染拡大防止に努めましょう。

今年はRSウイルス感染症が例年に比べて多くなっています。特に乳児期早期(生後数週間~数カ月間)に感染すると重症化しやすいので注意が必要です。年長児や成人は症状が軽く、RSウイルスに感染していることが分かりにくいので、軽い咳が出るなど症状がある場合は乳児に近づかないようにしてください。

新学期が始まると子どもどうしの接触が多くなり感染のリスクが増大します。手を洗うときは、指の間や手の甲などの洗い忘れやすい箇所までしっかりと洗うことが大切です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

お盆休み前後で患者数は減っています。手足口病やヘルパンギーナも減少してきました。感染性胃腸炎はウイルス性はほとんど無く、10才以上成人まで細菌性の腸炎がみられます。鶏肉のたたきやバーベキューによるものが多いようです。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

外来数は少ない状況。ヘルパンギーナ、手足口病が流行中。同類のウイルスのため初期にヘルパンギーナ、翌日発疹が出現し手足口病、という経過の例も多い。感染性胃腸炎も小流行。RSウイルスが季節外れに散見。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

手足口病の流行は落ち着きました。一時は減少していたアデノウイルス感染症が再び増加、熱はなく眼症状が中心。RSウイルスの流行は減少してきたが、咳の遷延する病態が増えてきている。胃腸炎はあまりない。ムンプスや水痘も散見される。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 35 週 (8 月 28 日 ~ 9 月 3 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(8月)

手足口病警報発令中です！！

定点当たり報告数が警報終息基準値の「2」を下回るまで警報発令が続きます。
 手洗いを行い感染予防に努めましょう！

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 2.91 | (2.82) | ➔ | ➔ | ➔ | ↓ |
| 2 | RSウイルス感染症 | 2.85 | (1.24) | ↑ | ↑↑ | ↑ | ↑ |
| 3 | 手足口病 | 2.24 | (2.12) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.32 | (0.56) | ➔ | ➔ | ➔ | ↓ |
| 5 | ヘルパンギーナ | 0.68 | (0.71) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況： 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

手足口病の報告数は先週と比べほぼ横ばいですが、警報は継続しています。患者は回復後も便からのウイルス排泄が3~4週間ほど続きます。引き続き、感染予防に努めましょう。

RSウイルス感染症の報告が増えてきました。特に、中和保健所管内の報告数が多くなっており、県北部(奈良市保健所および郡山保健所管内)では急増しています。RSウイルスは、2歳までにはほぼ全員が1度は感染するとされており、その後も何度も感染と発病を繰り返します。感染経路は、ウイルスに感染している人の咳やくしゃみで飛び散るしぶきを浴びて吸い込む飛沫感染や、ウイルスがついている手指や物品(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染です。日頃から、手洗い・うがい・咳エチケットを心がけましょう。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 8 月)◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------|-----|----|----|-----|--|
| RS | | 1 | | | RSウイルス感染症(1) |
| アデノ | 3 | 3 | | 1 | 感染性胃腸炎(1)、手足口病(1)、上気道炎(1) 喘息様気管支炎(1) |
| エコー | 3 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| コクサッキーA群 | 6 | 2 | | | 手足口病(2) |
| コクサッキーB群 | 5 | 1 | | | ウイルス性発疹(1) |
| パルボ | B19 | 2 | | | 発疹症(1)、特発性血小板減少性紫斑病(1) |
| ライノ | 2 | 7 | | | 手足口病(2)、肺炎(1) RSウイルス感染症・気管支肺炎(1) 咽頭炎(1)、上気道炎(2)、けいれん重積・脳症(1) 水痘・手足口病疑い(1) |

奈良県感染症情報

平成 29 年 36 週 (9 月 4 日 ~ 9 月 10 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 平成 29 年度 8 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 2.82 | (2.91) | ➔ | ➔ | ➔ | ↑↑ |
| 2 | RSウイルス感染症 | 2.59 | (2.85) | ↑ | ↑ | ↑ | ↗ |
| 3 | 手足口病 | 1.68 | (2.24) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.47 | (1.32) | ↗ | ↗ | ↗ | ➔ |
| 5 | ヘルパンギーナ | 0.85 | (0.68) | ➔ | ➔ | ➔ | ↗ |

発生状況： 大流行 流行 やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、➔横ばい、↘やや減少、↓減少

◆県内概況◆

RSウイルス感染症の報告数が、先週に引き続き多くなっています。例年、9月ごろから増加が始まりますが、今年は1ヶ月早く始まり、今後も流行の拡大が見込まれるため注意が必要です。RSウイルスに感染すると、2~8日の潜伏期間を経て、発熱や鼻水などの上気道炎症症状が数日続きます。多くの場合、軽症でおさまりますが、1歳未満の乳児の場合は、急性細気管支炎や肺炎などの重い呼吸器症状をおこすこともあります。咳が出るなどの症状がある年長児や成人は、できるかぎり乳児との接触を避け、マスクを着用することが大切です。また、子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどはこまめに消毒し、きちんと手洗いを行いましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

新学期前後で感染症は、保育園児以外では目立ったものは少ない。保育園児でRSウイルス感染症とアデノウイルス感染症(咽頭結膜炎)が流行している。両者とも38~39℃の発熱が4~5日続き、初期は疑って迅速検査を行わないと判断できない。手足口病やヘルパンギーナに代表される夏風邪はほぼ消失している。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

気候の変化と共に外来数はやや増加。
 RS 気管支炎が流行。発熱、咳嗽の一見感冒様で特に咳嗽が多いという訳ではなく診断は迅速検査による場合が多い。入院を要する例もある。年上の同胞が感冒症状を伴っている場合も多い。
 手足口病、ヘルパンギーナは下減少した。感染性胃腸炎も少ない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルス感染症が増加している。細気管支炎を併発し、入院例も多い。手足口病、ヘルパンギーナは減少、アデノウイルス感染は結膜炎に加え水様性下痢の遷延する胃腸炎が増多。
 また、ノロウイルスと思われる嘔吐症の家族内感染もみられている。



奈良県感染症情報

平成 29 年 37 週(9 月 11 日～ 9 月 17 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 感染症予防対策～インフルエンザや RS ウイルスの感染経路は、飛沫感染と接触感染です～

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | RS ウイルス感染症 | 3.65 | (2.59) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.94 | (2.82) | → | → | ↗ | ↓ |
| 3 | 手足口病 | 1.41 | (1.68) | ↓ | ↓ | ↘ | ↓ |
| 4 | A 群溶連菌咽頭炎 | 1.00 | (1.47) | → | ↗ | ↘ | → |
| 5 | ヘルパンギーナ | 0.74 | (0.85) | → | → | ↓ | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症が流行しています。特に、中和保健所管内西部地域と吉野保健所管内で定点当たり報告数が高くなっています。また、今週はインフルエンザの報告が奈良市保健所管内から2件、郡山保健所管内から3件ありました。例年、インフルエンザの本格的な流行は新年になってからですが、過去には9月に集団感染事例が発生したこともあります。

RSウイルスもインフルエンザも、ともに飛沫感染と接触感染により感染します。感染予防のポイント「手洗い」「マスク着用」「咳エチケット」を心がけましょう。

感染症予防対策

～インフルエンザや RS ウイルスの感染経路は、飛沫感染と接触感染です～

- ▶ **飛沫感染**…感染者のくしゃみや咳、つばなどの飛沫と一緒にウイルスが放出し、別の人がそのウイルスを口や鼻から吸い込み感染すること
- ▶ **接触感染**…感染者がくしゃみや咳を押さえた手で周りのものに触れてウイルスが付き、別の人がその物を介し、口や鼻の粘膜から感染すること

飛沫感染・接触感染を防ぐためには

- 帰宅時や調理の前後、食事前など、**こまめな手洗い**を心掛けましょう。
- アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- 外出時なども手を顔に持っていないようにし、外食時も食前は手洗いを心掛けましょう。

● 咳エチケット

せきやくしゃみをする間は、飛沫に病原体を含んでいるかもしれないので、周りに人がいる際にはマスクを着用しましょう。



マスクがない時でも、くしゃみや咳の時は、周囲の人から顔をそらし、ティッシュで口と鼻を覆い、すぐに捨てるようにしましょう。

出典: 首相官邸ホームページ
<http://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho2013>



奈良県感染症情報

平成 29 年 38 週(9 月 18 日～ 9 月 24 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | RS ウイルス感染症 | 2.91 | (3.65) | → | → | ↗ | ↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.18 | (2.94) | ↘ | ↘ | → | ↑↑ |
| 3 | A 群溶連菌咽頭炎 | 0.94 | (1.00) | → | ↗ | ↘ | ↗ |
| 4 | 水痘 | 0.79 | (0.29) | ↑ | ↑ | ↑ | ↑↑ |
| 5 | 手足口病 | 0.65 | (1.41) | ↓ | ↓ | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**→**横ばい、**↘**やや減少、**↓**減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症は、報告数の多い状態が続いています。また、第 38 週(9/18～9/24)もインフルエンザの報告が4件ありました。第37週でもお伝えした通り、ともに飛沫感染と接触感染で感染します。風邪症状のある人との密接な接触は避け、人混みではマスクを付けるなど予防することが大切です。

まだまだ日中は暑い日もありますが、これから寒くなってくると、様々な感染症が流行します。日頃から、基本的な感染症予防(手洗い・うがい・咳エチケット)に努めましょう。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

地域により異なりますが、保育園児で水痘が大流行しています。罹患児は大半が水痘ワクチンを1回ないし2回接種を完了しています。クラスの大半が感染しており、ワクチンの発病予防効果はほぼ無いと言ってよい状態です。救いは発熱は1日間程度で、発疹数は少なく、発疹の形態が、未接種者の以前からみられた発疹とは異なり、やや大きなベタとした後半の中心に小ぶりの水泡を有しています。

アデノウイルス感染症も保育園児で流行性角結膜炎と咽頭結膜熱両方が流行しています。RSウイルス感染症は小流行状態です。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

咳嗽、軽度発熱の感冒症状例が増加。
 マクロライドに効果のある例が多い印象。RS陽性例は減少傾向。
 咽頭発赤例も増加してきたが、インフルエンザを疑う例はまだない。
 感染性胃腸炎は僅かずつ持続して見られる。水痘が増加してきた。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルスの流行が続いている。
 高熱、激しい咳嗽が遷延し、入院例も多い。
 手足口病、ヘルパンギーナは減少。アデノウイルス感染症も散見程度。胃腸炎もまだあまり多くない。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 39 週 (9 月 25 日～10 月 1 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(9月)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | RS ウイルス感染症 | 2.47 | (2.91) | ➡ | ↗ | ↘ | ↗↗ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.41 | (2.18) | ➡ | ↘ | ➡ | ↗↗ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.00 | (0.94) | ➡ | ↗ | ↘ | ↘ |
| 4 | 手足口病 | 0.82 | (0.65) | ↘ | ➡ | ↘ | ↘ |
| 5 | 突発性発しん | 0.53 | (0.38) | ➡ | ➡ | ↘ | ↗↗ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

RS ウイルス感染症の報告は、吉野保健所管内で増えています。マスクの着用や手洗いをしっかり行いましょう。

感染性胃腸炎の報告数は横ばいです。昨年は、ノロウイルス GII.2 による保育園や幼稚園を中心とした集団感染事例が 10 月中旬から多発しました。患者の糞便や嘔吐物には大量のウイルスが存在し、処理方法を誤ると感染を上げる原因となります。正しい処理方法を確認しておきましょう。

インフルエンザの報告が続いており、第 39 週は奈良市保健所管内から 3 件ありました。

◆病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 9 月)◆

*ウイルス分離同日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------|-------|----|----|-----|---|
| RS | 1 | 2 | | | 気管支炎(1)、RS ウイルス感染症(2) |
| アデノ | 1 | 1 | | | 滲出性扁桃炎(1) |
| アデノ | 2 | 1 | | | ヘルパンギーナ(1) |
| アデノ | 40/41 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| エコー | 6 | 2 | | | 無菌性髄膜炎(2) |
| コクサッキーA群 | 6 | 5 | 1 | | 手足口病(6) |
| コクサッキーB群 | 2 | 2 | | | 無菌性髄膜炎(2) |
| サイトメガロ | | 2 | | 1 | 発疹症(1) 気管支肺炎・突発性発疹(1) 突発性発疹・熱性けいれん(1) |
| ノロ | GII.2 | 1 | | | けいれん重積(1) |
| ノロ | GII.4 | 4 | | | 感染性胃腸炎(4) |
| ヒトパレコ | 4 | 2 | | | 不明熱(2) |
| ヒトヘルペス | 6B | 1 | 3 | | 急性咽頭炎(2)、けいれん重積(1) ヘルパンギーナ(1) |

奈良県感染症情報

平成 29 年 40 週 (10 月 2 日～ 10 月 8 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題 ノロウイルスについて。～その1～

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | RS ウイルス感染症 | 2.71 | (2.47) | ➡ | ↗ | ↘ | ➡ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.47 | (2.41) | ➡ | ➡ | ➡ | ↘ |
| 3 | 手足口病 | 1.41 | (0.82) | ➡ | ↑ | ↘ | ↘ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.29 | (1.00) | ➡ | ↗ | ➡ | ↘ |
| 5 | 突発性発しん | 0.65 | (0.53) | ↗ | ➡ | ↗ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↗**急増、**↑**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

RS ウイルス感染症は、中和保健所西部地域や吉野保健所で定点当たり報告数が多い状況です。発症の中心は0歳児と1歳児です。成人では、通常は感冒様症状のみですが、RSウイルスに感染した小児と接触し、一度に大量のウイルスに曝露して感染することによって、症状が重くなる場合がありますため注意が必要です。

感染性胃腸炎の報告数は横ばいです。インフルエンザの報告が中和保健所東部地域から6例ありました。いずれも幼児からの報告です。

現在大きな流行となっている感染症はありませんが、これから冬季に流行する感染症が増加することが予想されます。手洗いは、手指に付着している病原体を減らす最も有効な方法です。石けんと流水を用いた手洗いを行いましょう。また、うがいや咳エチケットにも努めましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

気温が低くなってきて鼻水と咳のいわゆる風邪が増えてきました。季節の変わり目で喘息の発症もよくみられます。感染症では保育園児を中心にRSウイルス感染症の流行が続いています。初めは単なる風邪様ですが2日くらいで痰の絡んだ咳の増強と39℃前後の弛張熱がポイントです。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加傾向。感冒、高熱例が増加してきた。
 咽頭発赤、高熱例があるがまだインフルエンザ様ではない。乳児でRS陽性例がある。
 感染性胃腸炎もあり嘔吐のみのノロ様例もある。
 夏風邪のヘルパンギーナ様例や手足口病の散発例がまだみられた。軽症経過。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RSウイルスの感染の流行が続いている。入院必要例も多い。
 ノロと思われる胃腸炎も増加してきた。典型的な夏カゼは減少している。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 41 週 (10 月 9 日～10 月 15 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- インフルエンザについて
- 平成 29 年度 9 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 2.71 | (2.47) | ➡ | ↗ | ↘ | ↕ |
| 2 | RS ウイルス感染症 | 1.79 | (2.71) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.79 | (1.29) | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ |
| 4 | 手足口病 | 1.76 | (1.41) | ↗ | ➡ | ↗ | ↗ |
| 5 | 水痘 | 0.47 | (0.41) | ➡ | ↘ | ↗ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告は横ばいです。県内では、今シーズン初発となるノロウイルスによる集団感染が発生しました。今後、ノロウイルスの流行拡大が予想されます。手洗いを励行しましょう。
 インフルエンザの報告は、郡山保健所管内で 1 例、中和保健所東部地域で 3 例ありました。県内では、インフルエンザによる集団感染が発生しています。例年、ピークを超えてから B 型の割合が増加しますが、中和保健所管内の保育園で発生した集団感染は、医療機関における迅速検査でインフルエンザ B 型と判明しています。また、郡山保健所管内の小学校で発生した集団感染は、保健研究センターで検査を実施した結果、インフルエンザ B 型(山形系統)を検出しました。手洗いや咳エチケットに努め、感染しないように注意しましょう。

◆インフルエンザについて◆

インフルエンザは、インフルエンザウイルスに感染することによっておこる疾患です。感染力は非常に強く、日本では毎年約 1 千万人、約 10 人に 1 人が感染しています。

～インフルエンザに感染しないようにするためには～

- (1) 流行前のワクチン接種
- (2) 外出時のマスクの着用
- (3) 帰宅時や調理時、食事前の手洗い
- (4) 適度な湿度の保持
- (5) 十分な睡眠と栄養のとれた食事
- (6) 人混みや繁華街への外出を控える

◆首相官邸ホームページ (季節性)インフルエンザ対策

<http://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/influenza.html>



◆厚生労働省 インフルエンザ(総合ページ)

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/influenza/index.html

奈良県感染症情報

平成 29 年 42 週 (10 月 16 日～ 10 月 22 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報
- 気になる話題 ノロウイルスについて ～その2～

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.15 | (2.71) | ↗ | ↗ | ➡ | ↘ |
| 2 | 手足口病 | 2.41 | (1.76) | ↗ | ➡ | ↗ | ↘ |
| 3 | RS ウイルス感染症 | 1.85 | (1.79) | ↘ | ↘ | ↘ | ↘ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.53 | (1.79) | ↗ | ↗ | ➡ | ↘ |
| 5 | ヘルパンギーナ | 0.68 | (0.26) | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの変化 **↗**急増、**↗**増加、**↗**やや増加、**➡**横ばい、**↘**やや減少、**↘**減少

◆県内概況◆

感染性胃腸炎の報告は、増加傾向です。ノロウイルスにはワクチンがなく、有効な予防法は手洗いです。石けんと流水を用いた手洗いを励行しましょう。また、食品を生で食べることは避け、よく加熱して食べるようにしましょう。

インフルエンザの報告は、奈良市保健所管内から 3 例、中和保健管内から 4 例ありました。

手足口病は、例年同時期よりも報告数の多い状況が続いています。治った後でも、比較的長い期間、便などからウイルスが排泄されることがあります。排泄物を適切に処理し、手洗いも忘れず行いましょう。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

感染症は少ないが、インフルエンザ予防接種希望者で混雑しています。インフルエンザは 7 月に発症者が出て以来、久しぶりに高校生で A 型が先週 1 名ありました。RS ウイルスの気管支炎の流行はそろそろ縮小しています。替わって、嘔吐と腹痛、下痢の感染性胃腸炎が少しですがみられるようになってきました。夏かぜの手足口病やヘルパンギーナは少数ですが未だにみられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

発熱、鼻汁、軽度の咳嗽の感冒症状例が増加。
 乳児で RS 陽性例、RS 様例も続いている。感染性胃腸炎は嘔吐が主のノロ様例が出てきはじめた。
 水痘が散発。手足口病がまだ見られた。
 インフルエンザはまだない。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

RS ウイルス感染の流行はやや落ち着きました。遷延する呼吸器症状のなかにはマイコプラズマ感染症がみられた。
 ノロウイルス胃腸炎の流行はまだない。インフルエンザもまだ発生していない。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 43 週(10 月 23 日～10 月 29 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- インフルエンザの感染経路について
- ノロウイルスについて ～その3～

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 手足口病 | 2.74 | (2.41) | ↑ | → | ↑↑ | ↓ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 2.68 | (3.15) | → | → | → | ↓ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.94 | (1.53) | ↗ | ↗ | ↑ | → |
| 4 | RS ウイルス感染症 | 1.38 | (1.85) | ↘ | ↘ | ↘ | ↓ |
| 5 | 突発性発しん | 0.50 | (0.50) | → | → | ↗ | ↓ |

発生状況： **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆県内概況◆

手足口病の報告数は、中和保健所東部地域で増加しています。手足口病はワクチンがなく、感染しても発病せずにウイルス排泄をしている場合もあるため、予防対策が難しい感染症の一つです。手洗いをこまめに行い、タオルの共有はやめましょう。
 郡山保健所管内の高校でインフルエンザの集団発生がありました。保健研究センターで検査を実施した結果、AH3(香港)型を検出しました。県内での A 型の集団発生は今シーズンに入り初めてです。手洗いなど基本的な予防対策に努めましょう。

◆インフルエンザの感染経路について



政府広報オンラインより転載

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 44 週(10 月 30 日～ 11 月 5 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患)◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | RS ウイルス感染症 | 2.53 | (1.38) | ↗ | ↗ | ↗ | ↓ |
| 2 | 手足口病 | 2.09 | (2.74) | → | → | → | ↓ |
| 3 | 感染性胃腸炎 | 2.03 | (2.68) | ↘ | → | ↘ | ↘ |
| 4 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.85 | (1.94) | ↗ | ↗ | → | ↑ |
| 5 | 水痘 | 1.41 | (0.35) | ↑↑ | ↑↑ | → | ↓ |

発生状況： **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆県内概況◆

RS ウイルスの流行が続いています。1 歳を中心に報告が多くなっています。また、通常夏の感染症とされる手足口病やヘルパンギーナが、この時期としては高いレベルが続いています。いずれも1～4歳の報告が多い状況です。

今週は、インフルエンザが多くの医療機関から報告されています。今後、インフルエンザの流行期を迎えるにあたり、飛沫感染対策としての咳エチケット(症状のある人がマスクを着用し、咳をする際にはティッシュやハンカチで口を覆う等の対応を行うこと)、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生を徹底することが重要となります。

◆小児科外来情報◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザ予防接種は多いが、感染症自体が多くなく、気温の低下で所謂かぜで来る方が大部分です。

夏かぜの手足口病とヘルパンギーナが保育園児で流行が続いています。本年 7 月頃の流行期に罹患した子が再び罹っていることも多々みられます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数は増加。発熱・咳嗽の例が増加してきたが、インフルエンザ様疾患はまだなく陽性例もない。

RS 様の乳児例も続いている。
 嘔吐を主とした感染性胃腸炎が増加。
 水痘ワクチン未接種の学童の水痘が散発。
 ヘルパンギーナがまだ見られた。
 伝染性紅斑が1例あった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ(A 型)の発症がみられだした。RS ウイルス感染症は減少。ノロウイルス胃腸炎は散見されるも大きな流行はまだない。

白苔を伴う扁桃炎(アデノ)、溶連菌の迅速は陰性、炎症反応亢進は乏しい)がよくみられる。
 いずれも対症療法で軽快。
 伝染性紅斑が増加。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 45 週 (11 月 6 日～11 月 12 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(10 月)
- 10 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.09 | (2.03) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 2 | RS ウイルス感染症 | 2.00 | (2.53) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 2 | A 群溶連菌咽頭炎 | 2.00 | (1.85) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 4 | 手足口病 | 1.38 | (2.09) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |
| 5 | 水痘 | 0.53 | (1.41) | ➡ | ➡ | ➡ | ➡ |

発生状況： **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの変化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

感染性胃腸炎が徐々に増加しています。例年、この時期にはノロウイルスによる胃腸炎が流行します。流行する時期には、症状がない方もトイレの後にはしっかり手洗いすることが大切です。また、牡蠣などの二枚貝(シジミ、アサリ、ハマグリ等も二枚貝)は、中心部まで十分加熱するようにして、生食には注意しましょう。

奈良市内で、インフルエンザの集団発生がありました。今回もインフルエンザウイルスB型によるものです。近年流行しているインフルエンザウイルスには4種類あり、種類が違くと再度感染します。マスク・手洗いなどの感染予防対策、咳エチケットなどの感染拡大対策を心がけましょう。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 10 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|----------|-------|----|----|-----|--|
| RS | 1 | 7 | | | RS ウイルス感染症 (6)、ヘルパンギーナ(1) 喘息様気管支炎(1) |
| EB | | 1 | | | EB ウイルス感染症疑い(1) |
| アデノ | 1 | 1 | | | 気管支炎(1) |
| アデノ | 2 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1) |
| エコー | 9 | 1 | 1 | 1 | 無菌性髄膜炎(1)、発疹症(1)、感染性胃腸炎(1) |
| エコー | 30 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1)* |
| ノロ | GII.6 | 1 | | | 感染性胃腸炎(1)* |
| コクサッキーA群 | 10 | 1 | | | ヘルパンギーナ・感染性胃腸炎(1) |
| パルボ | B19 | | 1 | | 伝染性紅斑(1) |
| ヒトヘルペス | 6B | 1 | 1 | | 無菌性髄膜炎(1)、扁桃炎(1) |
| ヒトヘルペス | 7 | 1 | | | 突発性発疹(1) |
| ライノ | | 4 | 1 | 1 | RS ウイルス感染症(1)、喘息様気管支炎(1) 急性上気道炎(1)、上気道炎(1) 気管支肺炎(1)、ウイルス性小脳失調(1) |

* 重複感染

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 46 週 (11 月 13 日～11 月 19 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.03 | (3.09) | ➡ | ➡ | ↗ | ↑ |
| 2 | RS ウイルス感染症 | 2.24 | (2.00) | ➡ | ↘ | ↑ | ↓ |
| 3 | A 群溶連菌咽頭炎 | 2.15 | (2.00) | ➡ | ↗ | ➡ | ↑↑ |
| 4 | 手足口病 | 1.76 | (1.38) | ➡ | ↘ | ➡ | ↑ |
| 5 | 水痘 | 1.00 | (0.53) | ↑ | ↑ | ➡ | ↓ |

発生状況： **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減：過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症および手足口病が、中和保健所西部地区(旧葛城保健所管内)で再び増加しています。1～2 歳の報告が多くなっています。

また A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が、徐々に増加しています。例年、11 月末から 12 月初旬に、患者報告が増加します。第 46 週は、3 歳から小学生まで広い年齢の患者が報告されています。この疾患は、潜伏期間は 2～5 日、突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛で発症し、しばしば嘔吐を伴うこともあります。抗生物質が効果がありますので、早めに受診し、医師の指示どおりに服薬しましょう。予防としては、患者との濃厚接触をさけることが最も重要で、うがい、手洗いなどの一般的な予防も大切です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザ予防接種で外来は混雑する時もあるが、感染症は少ない状態が続いている。手足口病の保育園児での流行が続いている。7 月頃にあった流行時に罹患した子の再感染もあり、原因ウイルスが異なるようです。症状は概して軽微で、熱が無い場合も多い。RS ウイルス感染症も保育園児でよくみられる。インフルエンザは 1 ヶ月以上前に高校生で 1 人あった後みられない。感染性胃腸炎も今年は非常に少ない。

中部地区(岡本内科子どもクリニック)

感冒が主。インフルエンザはまだない。
 感染症も少ない。感染性胃腸炎が流行、軽症。
 その他季節はずれであるがヘルパンギーナが散発。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは散見されるが、まだ大きな流行はない。
 胃腸炎は増加するもノロ陰性例が多い。
 手足口病、ヘルパンギーナが再び流行してきた。



今週の概要

- 12月1日は「世界エイズデー」

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.68 | (3.03) | ↗ | → | ↗ | ↗ |
| 2 | RSウイルス感染症 | 2.15 | (2.24) | → | ↓ | ↗ | ↗ |
| 3 | A群溶連菌咽頭炎 | 1.74 | (2.15) | → | ↗ | ↘ | → |
| 4 | 手足口病 | 1.24 | (1.76) | ↘ | ↘ | ↓ | ↑↑ |
| 5 | 水痘 | 0.91 | (1.00) | ↗ | → | ↑ | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

RSウイルス感染症は、先週に引き続き中和保健所西部地区(旧葛城保健所管内)で増加しています。インフルエンザの報告が増加してきました。奈良市保健所及び中和保健所東部地区(旧桜井保健所管内)では、定点当たり報告数が1.0を超えています。これからインフルエンザの流行期に入っていきます。まだインフルエンザの予防接種を受けていない方は、早めに接種するようにしましょう。マスク・手洗い等の感染予防、咳エチケットによる感染拡大防止を心がけるようにし、急に38度以上の発熱が出て、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴うなどインフルエンザが疑われる症状が出たときは、早めに医療機関を受診しましょう。



UPDATE! エイズのイメージを変えよう

治療法の進歩によりHIV陽性者の予後が改善された結果、HIV陽性者は感染の早期把握、治療の早期開始・継続によりエイズの発症を防ぐことができ、HIVに感染していない人と同等の生活を送ることが期待できるようになりました。また、治療を継続して体内のウイルス量が減少すれば、HIVに感染している人から他の人への感染リスクが大きく低下することも確認されています。エイズのまん延防止と患者等に対する差別や偏見の解消をめざし、12月1日の「世界エイズデー」を中心に世界各国で啓発活動が展開されます。下記のホームページをご参考に。

- ◎API-Net エイズ予防情報ネット
<http://api-net.jfap.or.jp/event/HivInsWeek/special2017/index.html>
- ◎エイズ検査相談マップ
<http://www.hivkensa.com/>
- ◎平成29年度「世界エイズデー」について(県保健予防課)
<http://www.pref.nara.jp/48706.htm>



インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|-----------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 3.91 | (3.68) | ↗ | → | ↑ | ↘ |
| 2 | A群溶連菌咽頭炎 | 2.38 | (1.74) | ↗ | ↗ | ↗ | ↓ |
| 3 | RSウイルス感染症 | 2.29 | (2.15) | → | ↘ | ↗ | ↘ |
| 4 | インフルエンザ | 1.87 | (0.81) | ↑↑ | ↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 5 | 手足口病 | 1.15 | (1.24) | ↘ | → | ↓ | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 少し流行 散発 (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 ↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

◆ 県内概況 ◆

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とRSウイルス感染症の定点当たり報告数が増加しています。風邪症状のある人との密接な接触は避け、人混みではマスクを付けるなど予防することが大切です。インフルエンザの定点当たり報告数が1.0を超えましたので、インフルエンザの流行が始まったとみられます。年齢に偏りはなく、乳幼児から高齢者まで報告があります。予防には1)ワクチン接種、2)飛沫感染対策としての咳エチケット、3)外出後の手洗い等、4)適度な湿度の保持、5)十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、6)人混みや繁華街への外出を控えるを心がけてください。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

インフルエンザ予防接種者以外は感染症は目立ったものも無く、少ない。先週まで流行していた手足口病とヘルパンギーナは久しぶりにみられず、この時期増加する嘔吐下痢の感染性胃腸炎もほぼなしの状態が続いている。インフルエンザもまだほとんど無いが、徐々に増加しそうである。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザはまだ見られない。アデノが散発、接触ありの咽頭発赤例が数例あるも陽性例はなかった。ノロ様の感染性胃腸炎が僅かずつ続いている。A群溶連菌感染症も散発。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザの大きな流行はまだない。ノロウイルスの流行もみられない。手足口病、ヘルパンギーナ、アデノウイルス扁桃炎が増加している。また、ウイルス性扁桃炎(アデノ、溶連菌陰性)や、ウイルス性発疹症(起因ウイルス不明)も増加している。



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 49 週 (12 月 4 日～12 月 10 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 病原体(ウイルス)検出情報(11 月)
- 11 月報(月単位報告対象疾患(性感染症・薬剤耐性菌感染症)の状況)

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 4.32 | (3.91) | ↗ | → | ↑ | ↑ |
| 2 | RS ウイルス感染症 | 3.21 | (2.29) | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 3 | A 群溶連菌咽頭炎 | 2.71 | (2.38) | ↗ | ↗ | ↗ | ↗ |
| 4 | インフルエンザ | 2.17 | (1.87) | ↑ | ↑↑ | ↑ | ↑ |
| 5 | 手足口病 | 1.21 | (1.15) | ↓ | ↘ | ↓ | ↓ |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

RS ウイルス感染症とインフルエンザの報告数が増加しています。ともに、主な感染経路は咳やくしゃみの際に口から発生する小さな水滴による飛沫感染です。普段から、マスク・手洗い等の感染予防(かからないように)、咳エチケットによる感染拡大防止(うつさないように)を心がけてください。インフルエンザにより、小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫が低下している方では肺炎を伴う等、重症化することがあります。保育所や幼稚園、福祉施設などの集団生活の場では特に感染予防が重要です。適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるなども感染予防には重要です。

◆ 病原体(ウイルス)検出情報(平成 29 年 11 月) ◆

*ウイルス分離同定日での集計結果

| 検出病原体 | 北部 | 中部 | 南部 | その他 | 臨床診断名 |
|--------|-------|----|----|-----|-----------------------------------|
| RS | | 1 | | | RS ウイルス感染症(1) |
| アデノ | 1 | 1 | | | 喘息様気管支炎(1) |
| アデノ | 40/41 | | 1 | | 感染性胃腸炎(1) |
| エンテロ | 71 | 1 | | | 無菌性髄膜炎(1) |
| コクサッキー | A2 | 1 | | | 急性気管支炎及び下痢症(1) |
| ノロ | GII.4 | | 2 | | 感染性胃腸炎(2) |
| ライノ | 2 | 3 | | | 急性咽頭炎(2)、咽頭炎(1)、気管支炎(1)、感冒・中耳炎(1) |

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 50 週 (12 月 11 日～12 月 17 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況(定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | 感染性胃腸炎 | 5.06 | (4.32) | ↗ | → | ↗ | ↑↑ |
| 2 | インフルエンザ | 4.02 | (2.17) | ↑↑ | ↑↑ | ↑↑ | ↗ |
| 3 | RS ウイルス感染症 | 3.59 | (3.21) | ↑ | ↑ | ↗ | ↑↑ |
| 4 | A 群溶連菌咽頭炎 | 2.88 | (2.71) | ↗ | ↗ | → | ↑↑ |
| 5 | 水痘 | 1.09 | (0.85) | ↗ | ↗ | → | → |

発生状況: **大流行** **流行** **やや流行** **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↓やや減少**、**↓↓減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が増加しています。年末に向けて、さらに増加と思われるので、手洗い・うがいを励行し、予防に努めましょう。また、人が多く集まる場では特に、咳エチケットを心がけて下さい。

RS ウイルス感染症とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎は県内南部で増加しています。予防としては、患者との濃厚な接触を避けることが重要で、手洗い・うがいなどの一般的な予防も大切です。

感染性胃腸炎の報告数も増加しています。ノロウイルスは乾燥すると容易に空中に漂い、口に入って感染することがあります。吐物やふん便は乾燥しないうちに床等に残らないよう処理し、処理後はウイルスが屋外に出て行くよう空気の流れに注意しながら十分に換気を行うことが、感染防止に重要です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

第 50 週になりインフルエンザが流行しだしました。A 型と B 型が半々です。症状は例年通りで発熱と咳が混じることが多いですが、B 型はそれに腹痛も加わっている場合もあります。この分を記載している段階(12 月 18 日からの週)で大流行になっており、1 日 10 人以上の陽性者があります。全て A 型に様変わりしました。今年の冬非常に少なかった感染性胃腸炎も増加してきました。今年大流行の手足口病は今年になり 3 回目の発症者がありました。種々のウイルスが出ているものと思われます。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

外来数はやや増加。インフルエンザが 21 日から増加、主に B 型であったが A 型も見られるようになった。散発であったが家族内感染も見られるようになった。ノロ様の感染性胃腸炎の流行が持続。他に水痘、A 群溶連菌感染症が少し。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザ(A 型)は徐々に増加してきているが、まだ大きな流行ではない。ノロウイルス性胃腸炎が急増している。嘔吐が主症状で発熱、下痢を伴った例年と同じ症状がみられる。家族内、保育所で感染している。RS ウイルス、ヘルパンギーナ、アデノウイルス、溶連菌の流行は依然続いている。

奈良県感染症情報

平成 29 年 第 51 週 (12 月 18 日～12 月 24 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザの流行が始まっています

今週の概要

- 咳エチケット違反していませんか？

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|-----|-----|-----|-----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 9.93 | (4.02) | ↑↑↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ | ↑↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.26 | (5.06) | ↗ | ↗ | ↗ | ↘ |
| 3 | RS ウイルス感染症 | 2.24 | (3.59) | → | ↘ | → | ↑↑ |
| 4 | A 群溶連菌咽頭炎 | 1.29 | (2.88) | ↘ | ↘ | ↘ | ↓ |
| 5 | 水痘 | 0.88 | (1.09) | → | → | → | ↑↑ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

県内における、インフルエンザの定点当たり報告数は先週に比べ、倍増しています。広範囲の年齢層から報告がありますが、特に小学生や中学生くらいの年齢で多くなっています。例年、この時期から報告数は急増していくため、さらなる感染拡大が懸念されます。気温が下がり、空気が乾燥してくると感染症が広がりやすくなりますので、加湿器の使用や基本的な感染症予防策、うがい・手洗いなどを励行し、感染予防に努めましょう。また、年末年始に人が多く集まる場所に出かける際には、マスクを着用し、咳エチケットを心がけて下さい。

せき 咳エチケット違反していませんか？

- × せきやくしゃみを手でおさえる
せきやくしゃみを手でおさえると、その手で触ったドアノブなど周囲のものにウイルスが付着します。ドアノブなどを介して他の人に病気をうつす可能性があります。
- × 何もせずにせきやくしゃみをする
せきやくしゃみをするとき、しぶきが2mほど飛びます。しぶきには病原体が含まれている可能性があり、他の人に病気をうつす可能性があります。

3つの咳エチケット

1. マスクを着用する。(口・鼻を覆う)
鼻からあごまでを覆い、隙間がないようにつけましょう。
2. ティッシュ・ハンカチなどで口や鼻を覆う。
口と鼻を覆ったティッシュは、すぐにゴミ箱に捨てましょう。
3. 上着の内側や袖(そで)で覆う。

他人への感染を防ぐため、咳エチケットを行いましょう！！

次回の週報(第52週)は、平成30年1月9日(火)に発行いたします。



奈良県感染症情報

平成 29 年 第 52 週 (12 月 25 日～12 月 31 日)
 奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
<http://www.pref.nara.jp/27874.htm> TEL:0744-47-3183

インフルエンザ注意報発令です！

今週の概要

- 小児科外来情報

◆ 定点把握感染症報告状況 (定点当たり患者報告数の上位5疾患) ◆

| 順位 | 疾患名 | 奈良県 | | | 北部 | 中部 | 南部 |
|----|------------|-------|--------|----|-----|----|----|
| | | 定点当たり | (前週) | 増減 | | | |
| 1 | インフルエンザ | 12.74 | (9.93) | ↑↑ | ↑↑↑ | ↑↑ | ↑↑ |
| 2 | 感染性胃腸炎 | 5.29 | (5.26) | → | ↑ | → | ↑ |
| 3 | RS ウイルス感染症 | 1.85 | (2.24) | ↘ | → | ↘ | ↗ |
| 4 | A 群溶連菌咽頭炎 | 1.74 | (1.29) | ↘ | → | ↘ | ↘ |
| 5 | 水痘 | 0.59 | (0.88) | ↘ | ↓ | → | ↗ |

発生状況: **大流行** **流行** やや流行 **少し流行** **散発** (疾患毎に、基準値を定めています。)
 増減: 過去5週間平均数と比べたときの变化 **↑↑急増**、**↑増加**、**↗やや増加**、**→横ばい**、**↘やや減少**、**↓減少**

◆ 県内概況 ◆

インフルエンザの定点当たり報告数が注意報開始基準値「10」を超えましたので、インフルエンザ注意報発令です。今後、更に増加し本格的に流行するとみられます。マスク・手洗い等の感染予防(かからないように)、咳エチケットによる感染拡大防止(うつさないように)を心がけてください。特に、小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫が低下している方では肺炎を伴う等、重症化することがあります。小児や高齢者がいる家庭や職場などに、持ち込まないようにする事が重要です。適度な湿度の保持、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取、人混みや繁華街への外出を控えるなども感染予防には重要です。

◆ 小児科外来情報 ◆

北部地区(矢追医院)

12月中旬以降からインフルエンザが大流行しました。A型とB型ともに検出されています。症状は例年通りで発熱が出現して、咳が主体です。B型では初期に腹痛や嘔気があり、感染性胃腸炎と紛らわしい場合もあります。一方、感染性胃腸炎は例年になく少ない状態が続いています。

中部地区(岡本内科こどもクリニック)

インフルエンザが流行、インフルエンザ一色という程度ではない。
 A,B混在。B型は下痢など消化器症状を伴う例も多い。
 他に水痘、流行性耳下腺炎、A群溶連菌感染症があった。

南部地区(南奈良総合医療センター小児科)

インフルエンザは散見のみ、大きな流行はない。感染性胃腸炎は増多、ノロウイルスに加えロタウイルス感染もみられた。
 RSウイルス感染症の流行は続いている。またアデノウイルス感染症やヘルパンギーナもみられた。



《進撃の咳エチケット》(厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000187997.html>